

KASUGA LIFE

Vol. mid summer 2014



はじめに

受験生のみなさん!春日エリアへようこそ!
かすがらいふ編集委員会委員長です。

知識情報・図書館学類って何!? 情報メディア創成学類って何ができるの!? など、多くの興味と期待を胸に、今日、この冊子を手にとられているかと思います。本誌「かすがらいふ」はそんな皆さんに、少しでも春日での学びと生活をイメージしていただけるよう、毎年制作されている情報誌です。講義内容の紹介から、受験体験記や生活体験記など、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類に関する様々な情報が凝縮されています。皆さんに楽しんでいただける内容になっておりますので、ぜひご一読ください。本誌を通して、春日エリアでの生活(かすがらいふ)を少しでも感じていただけたら幸いです。

来年の春、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

2014年度かすがらいふ編集委員会 委員長

このPDF ファイルは 2014 年 7 月発行の冊子「かすがらいふ 2014 年 夏号」を Web 掲載用に一部改編したものです。

目次

1. 学類紹介	1
知識情報・図書館学類	1
情報メディア創成学類	3
2. 授業紹介	5
全学共通科目	5
専門科目	9
3. 専攻紹介	13
4. ゼミ	15
5. 合格体験記	16
知識情報・図書館学類	17
情報メディア創成学類	27
6. 生活体験記	35
学生宿舎	36
アパート	39
自宅通学	41
7. サークル	43
8. アルバイト	44
9. 筑波大学の1年間	45
10. 学費・宿舎・奨学金	46
11. 筑波大学の施設	47
12. 春日エリアの施設	49
13. 筑波大学附属図書館	51
14. 用語集	52

1. 学類紹介

知識情報・図書館学類

Knowledge and Library Sciences

学類長 長谷川 秀彦

ようこそ、筑波大学春日エリア、そして知識情報・図書館学類に興味を持っていただきありがとうございます。今日一日で、より興味が深まってくださればそれは嬉しいことですが、そうでなくともわれわれがここで何をしているかを知っていただくことは大いなる幸せです。

さて、みなさんは何か高価な物を買おうとするとき、あるいは元に戻れない選択をするとき（例えば、ピアスの穴をあけるとか？）、いろいろと情報を集め、悩んで決断を下すはず。多くの場合、最初の思い込みが勝つのかもかもしれませんが、それでもそれなりに悩むはず。学校の選択だってそうだったはず。小中学校は、義務教育で学区も決められていて、お受験をするのでなければほとんど選択肢はありません。中学卒業時には、高専とか、高校、あるいは就職という選択肢があったはず。高校も、普通科、商業科、工業科とか、国公私立の別、あるいは共学か男子校、女子校といったものがありました。それでも、多くの場合は、自宅から通える範囲という制約があったはず。

大学のときはどうでしょう。大学説明会に来てくださったということは、大学短大専門学校などへの進学、海外留学、就職などの中から、筑波大学への進学を考えてくださっているわけです。大学を選ぶといったとき、

- ・大学でどんな内容のことを学ぼうとするのか
- ・大学生という時期をどこでどう過ごすのか

という二つの大きな選択を同時にしなければなりません。そしてその決断は、人生を大きく決める一歩になるのかもしれない。

大学で「何を学ぶか」にはいろいろな説明があります。例えば、数学を学ぶとか、知識情報学を学ぶとか、学問分野での説明があります。ロボットを作るとか、コンピュータのソフトウェアを作るとか、調査をするとか、いろいろな文献を読んで理論を考えると、方法による説明もあります。図書館の本から学ぶとか、ラーニングコモンズの助けを借りて学ぶとか、友人との対話から学ぶというものもあります。情報は図書やインターネットにあるので、大学なんて行かなくても大丈夫？そんなことはありません。同じような興味を持った人との対話から学ぶこと、人に説明できてはじめて納得できること、大学という場でしか得られない体験があるはず。大学には問題点がいろいろと指摘され

ていますが、それでも大学という場でしか学べないことは存在します。一人孤独に文献やデータから学びとるとするのは凡人には困難で、それを凡人にも可能にするのが大学という教育機関です。

さて、「どこで過ごすのか」です。今回は、自宅を離れて一人暮らしのチャンスです。大都会にでて、一人暮らしを満喫するという選択肢もあります。しかし、どの地域に住むか、どんなタイプの家に住むか、隣にはどんな人がいるのかなど、楽しい反面、決断を求められることや不安なことが山ほどあります。つくばなら、多くは一人暮らしビギナーの大学生、そして最初の一人暮らしは学生宿舎と、自由度と同時に悩み事も大幅に減らすことができます。交通機関は使わなくとも、壁をノックすればすぐコンタクトできます。難しいレポート、大丈夫、3軒隣の友人が教えてくれるでしょう。友だちと一日おきに食事を作り合えば、労力半分で、料理の腕の切磋琢磨まではかれてしまいます。自宅通学でも、たまには友人のアパートに泊めてもらいましょう。とにかく、高校時代までとは大きく違う生活ができるはずです。

今の時代、大学で学んだことがそのまま未来永劫使えるとは考えられません。大事なことは「一つのことをきちんと学ぶこと」ではないでしょうか。一つのことをずっと深めてプロになったり、また経験を糧に他の分野を開拓したり、どちらの道もありでしょう。就職でいえば、一つの会社に定年まで勤めることと、新たな仕事を開拓し続けることのようなものです。つくばで暮らしたら、次はどこへ行こう？そのままつくばに残ったり、故郷に帰ったり、新天地に向かったりと道はいろいろです。世界は広く、どんな可能性があるかはわかりませんが、そのころのみなさんは一人暮らしビギナーではありません。一人暮らしの苦労や失敗は大学生のときに経験済みです。大学時代の経験、友人は一生の財産になるはずです。

「かすがらいふ」は、大学生進行形の学生が書いた「学ぶこと」と「生活すること」のガイドです。すべてがこのとおりとはいきませんが、みなさんの将来「こんなこと学びたい」、「こんな生活したい」というチョイスの参考にはなるでしょう。大人になると身の回りの世界は広がります。より広い世界の一つとして春日エリア@つくばを活用してください。そして、もっと広い世界に羽ばたいていってください。不幸にして、つくばがみなさんの選択肢から漏れてしまったとしても、「つくばはこんなところ」とか、「つくばはよさそうだ」と知人に薦めていただけると確信しています。

どうか、今日は楽しんでいってください。

情報メディア創成学類

Media Arts, Science and Technology

学類長 平賀 譲

情報メディア創成学類を目指す皆さんへ

「情報メディア創成学類って何ですか?」、「どういう勉強をするのですか?」、「卒業したら何になりますか?」…… よく聞かれる質問です。受験希望者だけでなく、入学した学生からも聞かれます。これへの(ややかしこまった)答えは、学類のパンフレットや Web ページなどに書いてありますのでそちらもご覧ください。ものすごく簡単に要約してしまえば、「これからのネットワーク情報社会を発展させるために必要な基盤的な技術、とりわけ多種多様な情報内容を扱うコンテンツテクノロジーや、それを提供・伝達するためのネットワークメディアについて学び、それを生かした専門的技術者や研究者を目指す学類」です。しかしこういった説明でわかってもらえるか、納得してもらえるかとなると必ずしもそうでもなさそうです。

そうなる理由はいろいろありそうです。その一つは「どれだけ見えているか」。例えば Web ページを見るとき、普通のユーザなら提供される内容、つまりコンテンツに目が向きます。調べたいことがあれば検索サイトで検索してみます。しかしこれらが実際にはどのように実現されているのか、どのような、またどれだけの人たちが運用を担っているのか、実現のためにどれだけの研究や技術が蓄積されているのかは意識さえされていないでしょう。表示されるコンテンツは文字、図形、写真や動画、音など様々な形態をとり、それらが複雑に組み合わせられています。検索が役にたつには膨大な情報を集め、そこから有益な情報を取り出し、提供する仕組みが必要です。そもそもそういった情報が地球規模で瞬時にやりとりできるためには、それを支える大ネットワーク(いわゆるインターネット)が休みなく動き続けなければなりません。それらの存在について、どこまで見えているかでわかってもらえる度合いが違ってきます。

上は Web ページを例にあげましたが、いわゆるコンテンツ産業(アニメ、ゲーム等々)でも同じです。表にあらわれる華やかな面や人たちだけでなく、背景には膨大なスタッフ、技術やツール、それにつながる基礎的な研究があります。別にコンテンツ産業といわず、どんな産業や社会の活動でも同じことです。

情報メディア創成学類に入学したなら、まずそういった背景の存在、とりわけコンテンツやネットワークに関わる面に意識を向けてください。そしてそこにある個々の仕組みや理論、考え方について、学習・理解してください。それを踏まえて、自分が興味を持った分野について、知識や経験を生かした職業に進むのもよし、自分自身でさらに発展した研究や技術開発を目指すのもよしです。その時点で改めて、「情報メディア創成学類って何(だったの)?」と自問してみるのもいいでしょう。

はじめに戻って、わかってもらいにくいもう一つの理由は「我々にもわからないから」です。無責任だって？まあそうも言えるかもしれませんが、ちょっと違う話です。現在のネットワーク社会は、新しい業種やサービスが次々と生まれてきている渦中にあります。その多くは実を結ぶことなく消えていきますが、真に力のあるものは社会に定着し、さらには社会そのものを変革していくインパクトがあります。今は存在しない新しいものを作り出す斬新なアイデアやそれを実現していく努力は、あなた方自身が進めていくものです。我々はその手助けとなる知識や技術、さらには考え方や研究方法を教えることはできますが、そこから何が生まれてくるかは我々にも「わかりません」。

新しいものを作りだしていくというのは大変なことです。特に今は昔とは比べ物にならないほど個人の力が大きく発揮できる一方、すべてが競争にさらされる厳しい社会になっています。そこで伍していく力を養うには、授業を通じて学べる部分もあるにせよ、それだけでは決して十分ではありません。より専門的な知識や能力を身に付けるために大学院進学は是非目指してほしいところです。また教員や学生仲間、さらには様々な分野の人たちとの交流を通じて学べることも極めて多くあります。とりわけ、同じ世代で同じ意識をもった学生仲間と切磋琢磨していくことは有益です。実際、卒業生や在学生の中には、様々な社会的活動をしたり、自分たちでベンチャービジネスを起業している例もいろいろあります。

その点からいうと、よくある質問のもう一つのパターン：「XXX になれますか？」(XXX にはゲームクリエイターとかアナウンサーとか様々なものが入ります)。これ、回答に困る質問です。そもそも職業とか専門とかは「なれる」ものではなく、自分がそれを目指して「なる」ものでしょう。要は大学で学んだ知識・技術・能力をどのように生かしていけるかです。例えば本学類がクリエイター養成を目的とする学類かといえば、これは明らかに違います。しかし養った力を生かしてそういった方面に進むのは自由です。自分にとって何が必要かを考え、それを着実に身に付けていき、新しい情報の世界を切り開いていこうというチャレンジ精神旺盛な学生を情報メディア創成学類は歓迎します。

以上、学類の教育や進路といった点から書いてきました。この「かすがらいふ」にはそれだけでなく、入試、サークル、学生生活といった大学生にとっての様々な面についての情報が満載です。それらも踏まえて、ぜひ筑波大学、さらには情報メディア創成学類への入学を考えてもらえれば幸いです。

2. 授業紹介

大学の授業ってどんなもの？

春日の学生はどんなこと勉強するのかな？

そんなあなたの疑問に少しではありますがお答えします！

今回の紹介はあくまで執筆者の受講した講義の印象ですので、参考程度にお願いします。

※以下の文中では知識情報・図書館学類を「知識」、情報メディア創成学類を「メ創」と表記します。

全学類共通科目

共通科目

英語

情報学群の3学類（知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類、情報科学類）合同で講義があります。4月に行われるプレイスメントテスト（クラス分けテスト/マーク式）でA1～C2の6つのクラスに分かれます。英語がすごくできる人はSクラスなんていうクラスにいきます。どのクラスも予習・復習が大変なものは大変だし、楽しいものは楽しいみたいです。正直、先生と使用する教材次第です（今年は教材に『シャーロック・ホームズ』を使っているクラスもあります）。これは講義を受けてみないと何とも言えないところではあります。

講義は週に3回あり、それぞれ読み書きや聞き取り、会話の学習をします。高校で身に付けた英語の能力が衰えてさえいなければ、どうにかかります…多分。でも思っているより英語力は衰えているものなので、入学試験合格後も少し勉強しておいたほうがいいと思います。特にAC、推薦合格者は、合格してから入学までの間が長いので、勉強しておかないと、苦しむことになるかもしれません。

体育

「え、大学って体育あるの？」…あります。

1年生と2年生の必修科目です。学期ごとに種目を選択して受講します。運動が苦手な人でも初心者向けの種目を選べばとても楽しいです。そして筑波の体育ではニュースポーツ、フィットネス・トレーニング、シューティングスポーツなど普段聞きなれないような競技も体験できちゃいます！

運動設備が揃っている所以体育は充実していますよ。

第二外国語

知識は必修、メ創は必修ではないが受講可

フランス語

フランス語は二つのクラスに分かれます。フランス語の授業は会話中心です。私の受講している先生はフランスのあれこれについて教えてください、面白くて素敵な先生なので、講義が楽しいです。授業の雰囲気がいい感じなので、私は講義中リラックスできています（笑）。テストは、頑張りましょう。

ドイツ語

ドイツ語は週に2コマあり、一方は文法、もう一方は会話を主に勉強します。文法は教科書を読みながら講義を聞き、練習問題を解いて、と、中学の英語の授業と似たようなものです。試験はペーパーテストで、文法学習の確認が主です。辞書がないと解けない問題も多いので、辞書持込み可。会話の方では表現を覚えて、クラスメイトや先生と実際に受け答えをすることを主に行います。試験ではペアの子と指示された内容の対話をしました。学年末にはドイツ語検定もあるそうです。

スペイン語

スペイン語は発音の際の規則が多いですがそれに慣れてしまえば発音自体は英語よりも容易です。スペイン語は週に2コマあり、一方で文法を勉強し、もう一方では実際に問題を解いていきます。それぞれ先生が違い、スペイン人の先生もいらっしゃるので本場の発音を知ることが出来るでしょう。

ロシア語

ロシア語は第二外国語の中で一番人数の少ない言語です。他の第二外国語はクラスが分かれていたりするのに比べ、ロシア語は1クラスでも席が余るほどです。そのため先生との距離がとても近い講義で、よく話しかけられます。課題は毎週出たり出なかったりしますが、プリントを読んだり埋めてきたりする簡単な課題です。テストは講義をちゃんと聞いていれば解ける問題なので、文法さえ覚えてしまえば割合楽です。何より楽しいので、迷ったらぜひロシア語にしてみませんか？

中国語

中国語は文をみて意味はだいたい分かってても、発音が難しいです。春学期の半分くらいは発音練習だけに費やしました。課題は予習で語句と読み方調べ、復習で練習問題がありました。テストは教科書から出題されるので、形式を知ればそこまで難しくありません。最後に、中国語履修者の鬼門、アチーブメントテスト（学習の到達度を確認するテスト）は実施日が近くなると授業で解説を受けますが、こつこつ勉強していないとつらかったです。

※この他にもアラビア語、朝鮮語なども受講可。ただし知識では必修科目の単位には含まれません。

総合科目Ⅰ

フレッシュマンセミナー

通称フレセミ。筑波大学はクラス制を採っていて、知識は4クラス、メ創は2クラスに分かれます。フレセミでは高校でのHRのような感じでクラスメイトと仲良くなったり、担任の先生の話を知ったりします。他にも先輩や支援室（事務組織）の方の話を知ったり、中央図書館の見学に行ったりもします。クラスの人たちとは長い付き合いになるので、ぜひここで友だちをいっぱい作りましょう！

総合科目Ⅱ

自分の学類以外の講義を受けられるのが、筑波大学の特色であり魅力の一つ。興味のある講義を数ある中から選択できるのがこの総合科目Ⅱです。学生が広い視野を養うため、ABCの3種の科目群から講義を受講します。

ここでは、開設されている授業の一部を紹介します。総合科目シラバスには様々な科目名が載っているのでご参照ください。

科目群 A - 物質、数理、生命、環境等に関わる科目で概ね理系分野

生活を支える工学システム

私たちの生活を支えている通信技術やロボット技術について、複数の先生が最先端の内容を教えてください。先生1人あたり1～2回の講義で、それぞれの研究分野についての授業をしてくれます。自分の研究分野について話すので熱が入る先生も多く、また全く詳しくない人にもわかりやすく面白く説明して下さるので、とても楽しい授業です。

森林

複数の先生によるオムニバス形式の講義で、森林の役割、病気の発生と広がり方、日本とオーストリアの森林におけるスキー場の違いや「ロシア人は森林から何を学んでいるか？」まで幅広く教えていただけます。受講定員が250名と多く、主にスライドでの授業なので（プリント配布もありますが）置いていかれないようにするには集中力が必要です。

日常生活の中で見られる神経筋疾患

脳血管障害、アルツハイマー、プリオン病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、小脳変性症、変形性脊椎症、重症筋無力症、多発性硬化症、末梢神経障害と、非常に濃い授業です。医学的な知識のない学生に1から紹介するためかなりのスピードで進みますが、MRI画像や模式図をプロジェクターで見ながら結構詳しく話してくれるので楽しいです。特に中枢神経系の病気は未知のことが多くて、私はとても満足しました。

科目群 B - 精神、文化、社会、歴史等に関わる科目で概ね文系分野

古典に学ぼう！ 日本と東洋世界

文系には癒しの時間。先生方がオムニバス形式で、それぞれ「源氏物語」「水滸伝」「日本永代蔵」「老子」など異なる時代の東洋の古典について語ってくださいます。興味があると楽しい話がたくさん聞けて面白いです。古典が好きな人は是非。期末試験あり。

知的財産のしくみ（著作編）

その名の通り著作権についての授業です。中学校や高校で習った著作権についてより詳しく学ぶことのできる授業ですが、大学生が触れることの多い学術論文に関する内容が中心になっています。ちなみに受講希望者が定員を超えた場合、知識の人から履修が出来なくなりますので要注意。私は知識でしたがなんとか生き残りました。

デザインと社会

デザインに何ができるのか？ということを中心に、デザインと社会の関わりについて、環境デザイン・建築デザイン・プロダクトデザイン・情報デザインなどの視点から考える授業です。実例のスライドを見せながら、先生が延々としゃべります。加えてテストは記述式という一見ハードルの高い授業ですが、毎年受講希望者が定員オーバーする人気授業です。

科目群 C - 文系と理系が融合したより広範な主題からなる科目

アカデミック・コミュニケーション

さまざまな先生がご自分の研究分野について解説してくださる授業です。それぞれの専門分野について知るといっても、自分の専門外のことと自分の専門を関連づけて捉えること、専門外の人に対して説明する技を学ぶことなどができる授業でした。私の記憶にとくに残っているのは「データにだまされない方法」（グラフの読み取り方）、「様々な知識の融合」（高校で習った文理にわたる基礎知識と、大学での専門知識）、「科学とは何か」などです。受講者数は多くなく、毎回質疑の時間が設けられているので発言しやすいです。

スポーツを変えた発明

スポーツ界にはすごい「発明」をした先人たちがいた！バスケットボールの誕生、高跳びの背面跳び、野球の変化球…他にもラジオ体操の歴史や水分補給の通説の変化などそれぞれの分野の最前線の先生からためになる面白い話が聞けます。成績評価はレポート提出。

競馬の世界

この授業では、賭け事ではなく、スポーツ競技としての競馬を学びます。さらには、東京にある国立競馬場に見学にも行き、トップ騎手の方と握手したりもできます。

このような貴重な体験ができるのも筑波大学だけです！！

専門科目

専門科目とは、各学類がそれぞれの学類生に向けて開講している授業です。
ここでは知識とメ創の専門科目を紹介します。

知識情報・図書館学類の科目

情報基礎

パソコンやネットワークといった情報技術の仕組みについて学びます。自分はパソコンだめだから……(/ω\)という人も大丈夫。先生が基礎からやさしく丁寧に教えてくれます。終始穏やかな授業の雰囲気は、レポートやサークルに忙殺される学生たちの大きな癒しです(*´ω`*)

知識情報概論

普段私たちが何気なく扱っている知識や情報の本質について学ぶ授業です。「知識のフレーム」や「ドキュメント」など知識情報学、図書館情報学の専門用語が頻出し、その扱う内容ゆえに哲学チックな授業なので、好きな人にはたまらないはず。回を重ねるごとに、この授業の味がくせになってきます。……時々○○概論になるのは内緒(-ω-)

図書館概論

図書館について学びます。知識に来る人には図書館に興味を持っている人が多いですが、この授業を受ければ図書館の役割や活動の豊富さに驚くでしょう。先生が世界各地の図書館を紹介してくれるので、きっと新鮮な経験が得られるはずです(・ω・)/

情報数学

情報技術を扱うために必要な数学を学びます。内容としては、論理と集合やベクトルなど数学A・Bの分野に近いです。毎年、文系理系問わずこの授業に苦戦するといわれています……(/_)。先生の丁寧かつ、論理的な解説をしっかりと聞きましょう(´・ω・´)そして、テストに向けて助け合いの輪をつくっていきましょう。

情報リテラシ実習

あなたはグループでプレゼンテーションをしたことがありますか？あなたは自分のおすすめの場所などについてパンフレットを作ったことがありますか？この授業はリテラシ、読み書きの能力を向上させるのはもちろん、人前でプレゼンテーションをしたり、自分の作ったパンフレットの魅力を紹介したりします。

統計

統計って言われても何の事だかさっぱり……という人もいるでしょう。でもスタートはみんな同じようなものです。平均、中位数、最頻値というちょっと聞きなれないものから、ある仮説が正しいかどうか検定をしたりします。世の中には嘘つきなデータが転がっています。この授業を通して、あなたの統計データを見る目も変わることでしょ

哲学

ミレトスの自然哲学から論理実証主義までを学びます。高校で倫理を選択しているみなさんはより深く学ぶことができますし、そうじゃない人はソクラテスの考え方を理解することから始め、さまざまな思想を見ることができます。先人たちの思想を知り、さらに自分の思想を深めることができるかも。

情報基礎実習

パソコンの基本的な使い方と、レポートの書き方について、しっかりと学ぶ授業です。毎週レポートが出されますが、中々にハードです……。提出日前日には多くの学生が実習室で唸っていたりします。しかし、確実に大学でも、社会に出ても役立つことなので、サボらずきっちり受けましょう！レポートで A 評価が付くと嬉しいですよ！

基礎数学 A

高校数学でⅢCを履修していた人はおなじみ、そうでない人は微分・積分の応用と考えたほうがわかりやすいかもしれません。今まで何気なく扱ってきた関数や無限の概念を理解し、他の関数や微分・積分との関係を考えます。情報数学は論理や集合、ベクトルが中心でしたが、こちらは関数などが中心です。

プログラミング演習

「え、プログラミング？」と目を疑って人もいるでしょうが、間違いなくプログラミングです。知識を共有するシステムにはプログラミングが欠かせなくなってきています。教室にいるかなりの人数がプログラミング初心者なので安心してください。プログラミングはパソコンとにらめっこしたり、テキストを見ながら自分で考えたりと自分との戦いになることが多いですが、先生や先輩、友だちが協力してくれることもありますのであきらめないで！

情報メディア創成学類の科目

解析 I

やってきました、みんな大好き数学です。解析とは、つまるところ微分積分の応用です。微積なんて高校生で終わりだと思っていたあなた、メ創へようこそ！やはり大学の数学、読めない文字や記号がやたらめったら登場します。しかし要は単なる微積です。しっかり定義を確認しながら、使っていく練習をするとよいでしょう。長い定義も段々と覚えて使えるようになります。

情報数学

情報数学では主に、集合・命題についての考えや、その考えをコンピュータに理解させるための方法を学びます。講義は 2 時限連続で行われ、1 時限目に講義、2 時限目に演習（教科書の演習問題）と小テストをやります。この科目は高校でやった数学 A の「命題と証明」の発展と思われるものも扱っていますが、大抵は新規に覚えるものばかりです。

線形代数 I

線形代数では、主にベクトルや行列についての考えを学びます。講義は 2 時限連続で、1 時限目が講義、2 時限目が演習となっています。ベクトルは数学 B で扱うベクトルについての復習が中心ですが、行列では数学 C で扱うものよりも新たに出てきた考えなどを中心に扱うため、数学 C と同じだと思って取り組むと頭が混乱します。

教養と科学

メ創に所属している教員や外部の方が、自分の研究を題材にして紹介講演を行います。講演者との質疑やレポートなどによって、学類に関連する技術や研究の動向を学びます。この授業のなかで自分が研究したいことを見つけていくのもよいかもしれません。

情報メディア概論

これから 4 年間にわたって学ぶべきことの、はじめの一步をつまみ食いしていくような授業でした。Ruby を使ったオブジェクト指向とか、PL/0 を使った計算機の原理とか、Java を使った GUI プログラミングとか、HTTP 通信とか、HTML5/CSS/JavaScript とか、SSH とか。

理解できなくてもまず手を動かそう、というモットーのもとコードをひたすら書き写すことの多い授業でした。（何か 1 つ詳しく調べて学期末にレポートを書く必要はありますが）。

企業のセミナーもありました。Adobe とか Wolfram (Mathematica の) とか Apple とか。

毎回白紙の紙を渡されて感想や質問などを自由に書き込んで提出することで出席を取っており、次の授業のスライドの中で回答してもらえます。

コンテンツ表現演習

この授業は画像処理について学ぶ「平面表現」と構成力を養う「空間表現」に分かれて行います。

「平面」では、画像処理ソフトを使ってポスターを作ります。線の引き方や写真加工といった基礎的なことから教えてもらえるので、初心者でも全然心配ありません。毎週の課題は楽なものではありませんが、しっかり毎週こなして先生の評価を真摯に受け止めていけば、素人目にも明らかほど技術が向上します。

「空間」では、チームでのモビール制作を通じて空間デザインを学びます。毎週試作を提出して評価を受けなければならない、多くのチームが授業時間外にも集まって制作を行なっています。作業量は非常にシビアですが、そこで得られる団結力や空間デザインに対する造形感覚は絶対に将来の役に立つでしょう。最後には各々の作品を春日の施設内に飾る「もびいる展」を行い、招待状なども自分たちで用意して外部の方に見てもらいます。

なお、二年次に「情報デザインⅠ・Ⅱ」を履修したい場合はコンテンツ表現演習の履修が必要になります。

コンテンツ応用論

社会の第一線で活躍していらっしゃるの方々をお呼びして講演をしていただくオムニバス講義です。ゲームクリエイターや映画監督、プロデューサーやメディアアーティスト、コミュニケーションデザイナーやビジネス産業など、様々な業界から錚々たる講師の方々がいらっしゃいます。質問をしたり自分を売り込んだり目標ができたりと、自分を見つめ直すいい機会でもあります。

コンピュータリテラシ・

コンピュータリテラシ実習

この2つの授業は基本的には同じ授業として扱われ、皆さんもよく知るインターネットの使い方からHTMLによるホームページ制作や、Linuxの操作方法などといった人によってはあまり馴染みのないことまで学びます。コンピュータリテラシでは、コンピュータがどう動くのかなどを理解するために2進数や論理回路などについて知識として学び、コンピュータリテラシ実習では実際に手を動かすことにより実践的な面を学びます。

3. 専攻紹介

知識のみ

前のページまでは1年次で行われる講義を紹介してきました。

知識には三つの主専攻があり、3年次になると、「情報経営・図書館主専攻」「知識科学主専攻」「知識情報システム主専攻」のいずれかに属します。「情報経営・図書館主専攻」は社会に、「知識科学主専攻」は人間に、「知識情報システム主専攻」は情報技術にそれぞれ焦点を当てています。ここではそれぞれの専攻について紹介します。

情報経営・ 図書館主専攻

情報経営・図書館主専攻は「社会」に焦点を当てた主専攻です。さまざまな知識をどのように社会に活かしていくかについて学びます。図書館もその知識を社会に流通させる施設のひとつとして捉えています。

講義も「社会」に焦点をあてたものが多いです。知識情報サービス（図書館もそのひとつです）の運営やその中身に関するもの、知識情報を社会に伝えていく教育に関するもの、知識情報を支える法律に関するもの、書物の文化に関するもの、メディアが社会に与える影響を考えるものなどがあります。詳しい講義名が知りたい人は「知識情報・図書館学類パンフレット 2014」をご覧ください。ここに書いてある文章はそこに書いてある図をすごく噛み砕いて極力わかりやすくした文章です。それでもわかりにくかったらごめんなさい。

生きていく上で必ずかわりを持つ「社会」へ、「知識」を使ってどのようにアプローチをしていくかを考えるのはものすごく楽しいです！

情報サービス構成論

レファレンスサービス、という言葉を知ったことがあるでしょうか。程度や内容は図書館にもよりますが、基本的には図書館員が利用者の疑問・質問の解決のお手伝いをするサービスのことです。この科目では、レファレンスのプロの先生が、主にレファレンスサービスについてがっつり（でもさりげなく）叩き込んでくれます。毎回ビデオも見ます。内容はしっかりしているのですが、ストーリーがなかなかシュールで楽しいです（笑）。

情報経営・図書館実習

前半では指定された雑誌の中から好きな論文を2つ選び、それぞれ10分間のプレゼンテーションにまとめて発表します。準備は計画的にしましょう。そう、計画的に。論文を読み、発表し、質疑応答を行う力が身につきます。論文の読み方や発表の仕方は最初に教えてくださいますのでご安心を。後半では興味のある分野に分かれ、グループ研究を行います。何を研究したいのか考え、必要な知識を得ることのできる科目です。

知識科学主専攻

おそらく一番何をやっているのかが分かりにくそうな知識科学。そこではどんなことをやっているのでしょうか？知識科学主専攻は「人間」に着目します。知識科学主専攻では、知識・情報と人間とのかかわりについて学ぶことができます。これだけだと漠然としていて分かりにくいかもしれませんが、具体的には、「そもそも知識やら情報って何なの？」とか、「私たちはどうやって情報を探すんだろう？」といったものです。さて、これらの疑問を解決するには、さまざまな分野の知識が必要です。そんなわけで知識科学では、文系・理系を問わず、非常に幅広いジャンルの授業が開講されています。

知識科学実習

知識科学実習では、数週間ごとに担当の先生が変わり、質問紙調査やmanabaを用いたe-learning教材（電子教材）作成などいくつかのプロジェクトに、主にグループワークで取り組みます。主専攻の仲間と一緒に知恵を出し合い、協力して仲良く授業を進められるのが魅力的です。前述したプロジェクトのほかにも統計処理ソフトのSPSSやRなどを用いてあれこれ分析したり計算したり。2年生までに学んだことを活かす場でもあるので、研究で質問紙調査をするときの前提知識として量的・質的調査法を履修しておくことをお勧めします。

テクニカルコミュニケーション

皆さんマニュアルってご存知ですよ？携帯電話やテレビを買ったときや、お家にある電化製品が壊れたときに、引っ張り出してきて頼りにする“あれ”のことです。“トリセツ”とも言いますね。マニュアルには製品の使用方法・手順や困ったときの対処法などが載っています。この授業では、ズバリ、専門情報を正確にわかりやすく伝える方法を、マニュアル制作を通して学んじやいます。演習ではTwitterも使うので楽しいですよ！

知識情報システム主専攻

春学期必修である知識情報システム実習では、グループごとに出したアイデアを元にシステムを開発し、プレゼンテーションを行ったり、HTML5を用いたアプリケーションの作成などを行ったりします。その他に主専攻で開設している科目には、Webプログラミング、情報サービスシステム、知識資源の分析といった、システムを設計する際の考え方やそれらを構築するための技術、システム内でのデータの扱い方などを学び、習得する科目が中心となっています。

Webプログラミング

この授業は講義と演習の2本立てで行われます。まず講義でサーバ側プログラミングやクライアント側プログラミングの基本的な事項を学習・理解します。その後、Webの機構を用いて情報提供をするようなプログラムを、演習として実際に作成します。座学では理解しきれないことも、実際に演習をすることで、楽しく考えることができます。演習は全部で3回あり、そのうち2回レポート課題が課されます。テストは論述形式で、様々なWebの機構等の原理や仕組みへの理解が問われます。

知識情報システム実習

この授業は、基本的にシステム構築を行うことが中心になっています。春学期は、前半はグループに分かれデータベースを使うシステムを構築し、後半は個人でHTML5を使ってゲームや予定表などを作成し、最後に発表します。秋学期は「電子図書館」「電子書籍」「Java」の3グループに分かれ、それぞれの課題を進めていきます。プログラミングなどが苦手でも、グループの仲間と助け合って作成するので、とても楽しい授業です。

4. ゼミ

知識と創成には多くの先生方がいらっしゃいます。3年次の11月頃に各指導教員の研究室へ配属決定が行われ、12月から実際にゼミが始まります。大学で「ゼミ」といっても、なかなかイメージが湧きませんよね。ということで、今回はその紹介をしたいと思います。配属のシステムや各研究室の詳細は、時期がきたらたくさん情報が入ってきますので、安心してください。

私の所属する松林研究室では、4年次生4人と院生1人が集まり、週1で集団ゼミを行います。はじめの頃は、研究したいテーマの先行研究や関連研究について内容をまとめ、発表していましたが、研究テーマが決まってからは各自の進捗状況報告がメインです。指導教員のコメントをいただいたり、他のゼミ生の意見を聞いたりしています。だいたい1回のゼミで3人が発表し、全体で2・3時間かかります。必要に応じて個人ゼミを行うこともあります。環境としては、研究室に各自PCと机が与えられていますが、実際に作業する場所は自由で、図書館や自宅で研究を行う人もいます。

卒業研究のテーマは、指導教員が指導可能な手法・範囲であれば何でもできます。今年度の松林研究室では、学術論文のオープンアクセス化（論文を無料で自由に閲覧できる制度）の実態、図書館のレファレンスと質問サイトの比較、トレーディングカードゲームのプレイヤーの情報収集行動、「図書館」という言葉のイメージなど、さまざまな内容を扱っています。

また他の研究室では、輪読（同じ本について担当する部分を決め、その部分の内容についてまとめて発表）をしたり、ゼミ生の興味の方向について全員で話し合い、参考文献を提供しあったり、

また少し違うことをしています。個人ゼミが中心だったり、集団ゼミが中心だったりしますが、頻度は週に1回のところが多いです。指導教員がいないときでも、学生が自主的にゼミを行ったり、反省会をしたりするところもあるようですが、その年のメンバーによります。やりたいことがあれば他のゼミ生をどんどん巻き込みましょう。

また、知識では、卒業研究を行うにあたって、6月の着手発表会、10月の中間発表会、1月の最終発表会に参加する必要があります。そのため、発表会が近づくと、ほとんどの研究室がゼミで発表練習を行います。スライドの作り方、資料のフォーマットなど、各研究室によって特徴がありますので、それらはゼミの中で自然に学ぶことになります。

大学のゼミというと、「合宿」のイメージがある人もいるでしょう。私自身、まだ参加していないので詳しくは書けませんが、発表会を日夜行い質疑応答の力を鍛えるところもあれば、研究のリフレッシュとして旅行をメインで行う研究室もあるようです。興味があれば入学後に先生方に声をかけ、ゼミの見学や合宿に参加させていただくのもよい経験になると思いますよ。

5. 合格体験記

「春日民[※]になりたい」

そう思う方もいらっしゃるでしょう。頑張ってください!かすがらいふ編集委員会一同応援しております!!でも、ふとこんな疑問にぶち当たるのではないのでしょうか。

「受験ってどうすればいいの?」

それはみなさんが一回は持つ疑問、焦りだと思います。春日民も経験してきました。

「ACの対策って…」「推薦の面接どうしよう…」「二次対策はいつから始めればいいのか…」「小論文がうまくかけない…」わからないことだらけではないのでしょうか。でもこれらを乗り越えられなければ、楽しい楽しい春日民にはなれないのです…。では、先輩の春日民は受験をどう乗り越えたのでしょうか。

ここからは学類ごとにAC、推薦、前期、後期を経験したばかりの1年次の人にその経験談を書いていただきました(だいぶ個性豊かなところがありますが)。先輩たちがどのように受験を乗り越えてきたのか、どう自分なりに受験を乗り越えるのか、この合格体験記を読んであなたなりに考えてみてください。

※春日民…春日エリアに通う学生の通称

知識情報・図書館学類

AC入試	17
推薦入試	19
前期入試(文系)	21
前期入試(理系)	23
後期入試	25

情報メディア創成学類

AC入試	27
推薦入試	29
前期入試	31
後期入試	33

AC入試

◆受験のきっかけ・AC入試について◆

私が筑波大学のAC入試を受験したきっかけは、1人の先輩が筑波大学にAC入試で入学したことでした。その先輩とは高校の部活動を通して知り合いになり、私が高校2年生を終える少し前に、その先輩が筑波大学にAC入試で合格したということを知りました。その時まで筑波大学を目指していたものの、AC入試があるなんてことは知らず、いかに点数を上げて一般入試で合格できるようにするかという勉強をしていました。先輩がAC入試で合格したことを知り、私は筑波大学のAC入試の制度のことから調べるようになりました。

まず、AC入試とは何なのか。AC入試とは問題発見能力や問題解決能力、また、自分の持っているアイデアを使ってどのように工夫するか、などの力を評価するという入試です。どんな結果を出したかを評価するのではなく、どのように努力し、どのような工夫をして実績を出していったのかという過程も評価してもらうことができます。また、なぜこの学類を志望したのか、入学してから何がやりたいのかなどの明確な目的も必要です。私の場合は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されていた高校に通っていたため、そこで行った課題研究と、部活動での活動、また、どのように工夫し、どんなことを考えたのかという点

をまとめました。また、知識でなければとれない授業・資格等に関心があり、知識を強く志望しました。一次試験は書類選考です。自己推薦書と高校時代、また、それ以前も含めどのようなことを問題視し、解決してきたかなど、自分の言葉でまとめた書類を提出します。この時私は、書式などに制限がなく自由に書いて良いという点を最大限に使い書類を作成しました。一次試験を通過できたら二次試験が待っています。二次試験は面接です。私は3人の面接官に面接をされました。面接で聞かれた内容は主に、一次試験で提出した書類の内容について質問され、それについて答えるというものでした。ここでは、自分の言葉で伝えるということが大切になってきます。書類を作った内容を、どうプレゼンするか、また、自分の言葉でどう伝えるかなど伝える力も大切です。

AC入試を受けるにあたって1番大切なことは、自ら動くことです。高校の進路指導の先生に聞くのもよし、筑波大学のWebページを見るのもよし、「かすがらいふ」を読んでAC入試の受験を少しでも考えた方は今からでもAC入試についての情報を集めてみてください。また、筑波大学アドミッションセンターでは過去のAC入試合格者のレポートをWebページで公開しています。興味を持った方はぜひ見てみてください。

◆高校時代の過ごし方◆

私は、高校2年生から課題研究を始め、部活動は3年間アナウンスと番組編集を担当していました。好きなことに熱中しすぎてしまう私は、高校時代は研究や部活に時間を取られなかなか勉強に集中することができませんでした。高校2年生の後半になって大学のことを意識し始めてから、このままの生活をしていたら筑波大学は到底受からないのではないかと危機感を覚え、模試やセンターの対策を始めました。と言っても、英単語や古文単語、生物の基礎用語などの基礎中の基礎から勉強していきました。単語だったら、高校までのバスの移動時間で覚えることもできたので、コツコツ勉強することができました。暗記が苦手な私でも、毎日行ったため記憶を定着させることができました。AC入試に合格してからは、今まで忙しくて時間の取れなかった読書を再開しまし

た。本を読むことはとても素晴らしいです。読書をしていたおかげで、私はいつも現代国語だけはほぼ満点を取れていました。また、大学入学後に始まるプログラミングも積極的に行いました。独学で行うのは結構厳しかったので、大学のシラバスを見て参考書にされている本をひたすら読んで少しでも理解しようとしていました。もちろん、センター試験対策も行っていました。AC入試の合格は10月にあり、国公立では1番早い合格発表となっています。そのため、課題研究を継続的に行ったり、今まで自分がやりたくてもできなかったことを存分にすることができます。AC入試に合格してからの活動が入学後の生活を大きく変えるものになるため、しっかりと勉強をし、基礎学力をつけることが大切です。



◆一言◆

AC入試はまだまだ知られていない、どのようなものなのかわからないという人がたくさんいるかと思いますが、これを読んで少しでもAC入試のことを知っていただけたら幸いです。

大学受験でつらくなったら踏ん張ってください。きっと楽しい大学生活が待っています！それでは、皆様のご入学をお待ちしています！

知識情報・図書館学類

推薦入試

◆受験のきっかけ◆

私が知識を受験しようと考えたのは、昔海外で生活していたときに会った司書に憧れて図書館の司書になりたいと思ったからという理由と、中学生のときに情報学に興味を持ち始めて、高校生になっても情報学をやりたいという意思が揺らがなかったからです。

三者面談のときに担任の先生から筑波大学を紹介されたとき、図書館学と情報学の二つを主軸と

して勉強ができる知識は私にとって夢のような学類だと思いました。また、自由科目や総合科目で他の学類の勉強もできるところは筑波大学の大きな魅力でした。

オープンキャンパスに訪れた際にとっても楽しそうな先輩方の話を聞いたとき、ここならとても充実した大学生活が送れると確信し、受験しました。



◆高校時代の過ごし方◆

高校は家から遠く、片道1時間くらい掛かるのでとても大変でした。通学は主に電車だったため、電車内で本を読んだり英語の勉強をしたりして時間を有効に使っていました。

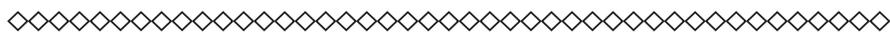
日頃から真面目で優秀な生徒ではなく、授業態度もあまり良いほうではなかったのですが、先生方から出された課題は必ず提出し、定期テスト前にはしっかりと学習をして上位をとるように心掛けていました。また、文化祭や体育祭などは実行委員にはならず、クラスメイトと盛り上がることに徹していましたが、委員会などには積極的に取り組んでいました。

休みの日は友達と毎週のようにカラオケに行っていました。2年のときは月平均3、4回くらい

行っていてよく飽きなかったなとしみじみ思います。受験期間はあまり行きませんでした。ストレスが溜まり過ぎて勉強に集中できないときにたまに歌いに行っていました。今でも毎月つくばに遊びにくる地元の友達とカラオケに行っています(笑)。

部活は将棋部の副部長として、楽しむことを第一目標として一生懸命取り組み、将棋だけでなく勉強にも大切な集中力と判断力を身につけました。2年の夏には女子団体で全国大会に出場し、各県の強い人たちと試合をして自分の技術を磨くことができました。

3年では本格的に受験勉強をしようと考え、朝の7時から学校で自習をしていました。



◆推薦入試について◆

高校で毎月小論文模試を実施していたので、色々なテーマの小論文を選んで幅広く取り組みました。3年の春あたりから自分の中の知識を増やすために毎日新聞を読み始め、自分が興味を持った記事は切り取ってノートに貼り付け、関連した記事を探したりその記事の内容を深く理解したりすることに努めました。また、新聞の社説を利用

して要約の練習をおこなっていました。受験一か月前から、小論文の添削してくださる先生から週3くらいの頻度で課題を出されたので小論文の勉強をメインでしていました。

英語小論文の練習は、最初から小論文練習をするのではなく正確に文章を読み取るために毎日通学の電車の中や空いた時間を使ってひたすら文法

と単語の練習をしました。特に単語は専門的な難しいものも積極的に覚えました。小論文練習をする際には敢えて筑波大学よりも高いレベルの大学の過去問を使用して、本番で焦らないようにしていました。

面接は高校の先生をお願いをして10月の下旬から受験直前まで週に1, 2回の頻度で面接練習をしていました。聞かれそうなことをあらかじめノートにまとめておいて、より深く答えられるよ

うにし、自分が想定していなかった質問に対しては、聞かれても動じずにはっきり受け答えができるように練習しました。実際に各地の図書館に行ったり、海外の図書館がどのようなサービスをしているのか、どういう面に重点を置いているのかなどを本やインターネットを利用して独自に調べていました。自分で調べたことは面接などで深く述べられるので有利だと思います。



◆推薦を受ける心意気◆

私は前期・後期で受かるほどの実力を持っていなかったのですが、自分をもっとも受かる可能性がある推薦に全力を注いでいました。高校1年生のときから、成績のことを考えて勉強に打ち込む一方で、委員会や部活にも積極的に取り組んだりしていました。ただひたすら一つのことを打ち込む自分のことを昔はつまらない人間だと思っていましたが、今はとても充実した3年間を過ごしていたと感じます。

大学に入学してから、同じ推薦で受かった人たちに話を聞いてみると、前期・後期が本命で正直推薦にはそんなに力を入れていなかった、という

人がたくさんいました。確かに前期・後期の勉強よりも推薦に力を入れるのは馬鹿らしいと感じるかもしれませんが、私は、推薦を受けるのであれば「もう後がない！」くらいの意気込みでやってほしいと思っています。推薦も大学に受かるための大きなチャンスの一つです。そのチャンスを無駄にしないでほしいです。全力で取り組むことは疲れるし大変だし泣きたくなくなるかもしれませんが、ですが全力でやった後に待っているのは想像を超えるような充実感と達成感です。推薦で学んだことはのちに控えている前期・後期にも役に立つと思うので、ぜひ全力で受けてみてください！



◆一言◆

受験勉強は大変だと思いますが、最後まで諦めずに頑張ってください。春にお会いできることを楽しみにしています！

知識情報・図書館学類

前期入試【文系】

◆受験のきっかけ◆

わたしが知識を志望したきっかけは母の勧めでした。母は高校時代、司書を志して図書館情報大学(知識・メ創の前身校)への進学を希望しましたが家庭の事情から叶わず、わたし(長女)が志望校を決めるにあたっての一案として提案されま

した。これが高校2年生の春のことです。調べてみると、おっ筑波大学って楽しそうな大学だな、ということがわかり、夏の大学説明会に参加してその帰りに一緒にいた母に筑波大学を受けたいと思った旨を報告しました。



◆高校時代の過ごし方◆

高校2年生の冬までは部活部活勉強部活部活でした(軽音楽系同好会所属)。学校が普通・進学・スポーツ等推薦と3つのコースにわかれていて、わたしは進学コースに籍を置いており漠然と勉強しないとな～でもな～と思いながら、ぼんやり毎日を過ごしていました。高校2年生の春に志望校を決めようと思ったのは同じ部活かつ進学コースの先輩でもある人が素晴らしい成績を残したことがきっかけです。これを機に後輩だろ、お前も

頑張れよ!と先生からせつつかれたり、わたし自身もこんなにちやほやされてみたいという下心を持ってしまいました。本格的に受験勉強を始めたのは高校2年生の冬で、それ以降は部活の比率を徐々に減らして、勉強に重きを置き始めました。時期としては遅いほうかもしれませんが、後述の部活との兼ね合いでも触れるとおり、わたしにはベストな時期であったと思います。



◆前期入試について◆

前期入試は、配点がセンター試験900点に対し二次試験800点と、比較的二次試験の点数が高いので、センター試験での点数が思わしくなかったとしても受験を諦めることはありません。実際、わたしもセンターリサーチが主にC判定、ときにはD判定もありましたが合格できました。

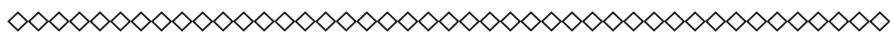
しかしセンター試験の配点が半分以上あるのは無視できませんし、自分が取ることのできるベストを目指しましょう。そして二次試験ですが、文系のみなさんは数学を諦めてはいけません。英語はもっと諦めてはいけません。たまにどちらかに特化してもう片方を捨ててしまう人もいますが、これはたいへんリスクです。つまらないわたしの話をするならば、数学と英語がまったく同じ点数で、両方そこそこでした。対策としては、わた

しは中学生のころから数学が大の苦手で、数学だけ個別の塾に通っていたのでそこに高校3年間も通い続けていて、3年生になったのを期に英語の授業も取り始めました。それに加え、学校での対策も大きかったと思います。とくに数学の先生は熱心で、理系文系関係なく、記述数学を受験で使う生徒向けに課外講習会を定期的に行っていてくれました。課外講習会では先生セレクトの問題を数題予習して、解説を受けるスタイルでしたが、記述の方法の指導もありました。

また、文系のみなさんにとっては社会科目の論述が大きな課題であると思います。筑波大学のようすべての問題が論述形式で、かつ字数が400字と長い形式の試験を課す大学は少なく、本番とまったく同じように練習ができるのは過去問のみ

と言っても過言ではありません。わたしは日本史選択だったのでセンター試験までは自分のなかに知識を増やすことをメインに考えて授業や問題集に取り組み、センター試験終了後の5週間ほどで日本史論述を詰め込みました。担任の先生が日本史の先生であり、先生の受け持っている生徒のなかで日本史を国公立二次試験で使う生徒がわたしのみだったので先生にかかりつきりになってもらいました。内容は5週間のうちはじめの2週

間ほどで一冊、日本史論述の問題集を終わらせ、3週間で問題集の2周目過去問を4年分16問に取り組みました。この期間で、400字詰め原稿用紙を100枚ほど消費したと思います。日本史論述は直前まで経験を積み続けましょう。はじめは何を書けばいいかわからなくても、経験を積むことで徐々に文章として、解答として向上します。諦めずに頑張りましょう！前期試験が一番定員が多いので、そのぶんチャンスもあります！



◆部活との兼ね合い◆

この文章を読んでいる方のなかには部活をやっている、今日も部活を休んだり、都合をつけたりしてきている方も多いと思います。わたしも先述の通り、高校2年生でこの大学説明会に参加した頃は部活ばかりやっていたわけです。受験生のなかには部活の執行代で、勉強も忙しければ所属する部活のことを考えたりもしなければいけない人も多いでしょう。わたしもそんな受験生の一人でした。徐々に勉強を頑張っていくにつれて、た

まにしか部活に出られなくなった事を、普通コースの同期5人から責められたりもしました。

たいへん無責任なことを言うようで申し訳ないのですが、そんな彼らも引退(高校3年生9月)頃には理解を示してくれましたし、合格が決まった時にはお祝いしてくれました。だからきっと今がどうであれ、目標に向かってがんばっていれば周囲の応援や理解が得られます。



◆一言◆

前期試験文系の試験は確かに理系よりつらい試験ではありますが、しかし、振り返ってみれば論述は楽しかったし、そこで得られる知識はほかの受験生とは一線を画す内容です。数学の記述も、400字の論述も、周りに一緒に戦う同志は多くないと思いますが、必ず結果は出ます。また、筑波でお会いしましょう！

知識情報・図書館学類

前期入試【理系】

◆受験のきっかけ◆

大学のことなど何も考えてなかったが、ある日親から筑波大学のことを聞き、筑波大学に興味を持ちました。オープンキャンパスなどで情報を得て、その魅力に惹かれ筑波大学を受験することを決意しました。



◆高校時代の過ごし方◆

勉強時間と遊ぶ時間の区別をしっかりとしました。授業時間や家での自習時間、塾に行っているときにはひたすら勉強をして、学校での休み時間は全力で休んでいました。休み時間にも追い込みをかけて勉強をする人がいますが、あれはただ疲れるだけなのであまりオススメはしません。

高校の授業では好きな科目をしっかりと勉強したほうがよいと思います。学校の授業はどれもしっかり聞いていましたが、特に好きだった化学はとても集中して勉強していました。やはり好きな科目を得意科目にすることが大切だと思います。他がだめだったとしても、その科目だけは絶対に点を取れる自信があると思えば、本番の試験でも安心して臨めます。

箇条書きではありますが、学年ごとの私の高校生活を書いておきます。

○高校1年生

とりあえず勉強よりも部活。何にもまして部活。まだ大学のことなど何一つ考えていない。

○高校2年生

相変わらず部活優先だが大学のことについても考えはじめる。親から筑波大学を勧められて調べてみたところ。筑波大学の魅力に惹きこまれ、夏休みを使いオープンキャンパスに行ってみる。

○高校3年生

高校生活最後の大会を終えていよいよ受験モード（一般的にはもっと早い段階から皆さんはじめています）。授業はだんだん演習中心になってくるので、毎時間集中して問題を解く。授業でおこなった問題の復習は必ずその日のうちに終わらせることを心掛ける。12月中旬頃からはセンター試験問題の過去問をひたすら解く。センター試験が終わるとだいたい自由登校になるので、集中できる場所を見つけて二次試験対策をおこなう。



◆勉強方法◆

ここには高校3年生の夏休みから、受験までの約半年間の勉強方法を記しておきます。

○夏休み

最後の大会も終わり、いよいよ本腰入れて受験勉強開始。なにより計画をたてて毎日の勉強を充実させることが大切。自由に使える時間が増えるのでただだらしてしまいがち。苦手な教科は夏休みにまとめて復習してしまい、夏休みが明けたら得意教科だと言い張れるようにしておく。志望校の過去問を少なくとも1年分は時間を計り解いておくことと難易度や問題傾向がわかるのでよい。

後期入試

◆受験のきっかけ◆

(後期入試に至るまで、志望理由)

私が知識を志望したのは司書になるという目標のためです。この目標を持ったのは中学生のときで、以前からの本好きが高じた結果でした。しかし、今は本が好きだからというよりも、図書館が好きで図書館を構成しているものの一つになりたくて司書を目指しています。

高校2年生の夏の三者面談で、担任の先生に司書に関してより専門的なことが学べるだろうと知識への進学を勧められたことをきっかけに知識の存在を知りました。それから、筑波大学や知識のwebページ、パンフレットを見てここに行きたいと思いました。しかし、最終的に志望校決定の

決め手となったのは、高校3年生のときに参加した知識主催の大学説明会でした。ここでの説明や講義体験、先輩方のお話は魅力的で、行く前に比べて知識に対する気持ちは格段に大きくなりました。

センター試験後の最終的な進路決定で、私は他の大学に行く気が全くなかったため、志望校を知識一つに絞ることに決めました。そのため、前期後期どちらも知識を受験しました。可能性が少しでもあるなら、その可能性を掴みたい、諦めたくないという思いがあり、後期入試の受験に至りました。



◆高校時代の過ごし方◆

高校時代は部活中心の生活でした。私は合唱部所属で、高校3年生の8月中旬まで続けました。少人数の部活でしたが、ほぼ毎日練習していても楽しかったです。本格的に受験勉強を始めたのは部活を引退した後でした。他の人に比べて遅れているという焦りはありませんでしたが、部活を

やりきったことですぐ切り替えることができたのはプラスだったと思います。

受験期に辛くなることもありましたが、友達と励まし合うことで乗り越えることができました。よく言われることですが、「受験は団体戦」です。友達を大切にしてください。



◆後期入試について◆

(受験対策や勉強など)

後期入試の内容は小論文です。小論文の対策は国語の先生に付いてもらい、一対一で添削をしてもらっていました。

まず、初めにやったことは小論文の書き方を覚えることです。小論文は読書感想文のような作文と違い、自分の主張、考えを伝えるためのものです。また、作文とは違った決まりもあり、「だ、である調で書く」というのがその代表例です。最初は小論文の書き方を大まかに知るために、国語

の便覧を利用しました。

次に、小論文で重要になるのがネタです。小論文では、与えられた話題の中でどれだけ自分の主張ができるかが勝負となるので、「この話題ではこのように論じればいい」というネタをある程度持っている必要があります。私が先生に勧められたのは『読むだけ小論文』シリーズ(樋口裕一著、学研マーケティング)です。このシリーズは小論文の書き方から、分野別の基礎知識が書かれており、この本を読むだけで最低限の知識が得られま

す。また、使えるフレーズも多数載せられていて、そこから論理を展開していくことも可能です。ネタ集めは他にも、新聞・雑誌の切り抜き、インターネット検索、関連する新書を読むなどさまざまなことができます。ネタはできるだけたくさん集めてください。

そして、小論文は書いてみるのが重要です。これは先生の協力が必要となりますが、添削してもらったのが一番いいと思います。知識の小論文の問題は、筑波大学独特の形式だったため、私は学校にある赤本で過去問を調べてひたすら書きました。だいたい、この学類ができる前あたりまで廻りました。知識の小論文は、他と比べて文字数が少なく、概ね400～600字が多いです。なので、コンパクトにまとめる力を身につけてください。また、テーマは固定されているわけではなく、さまざまなジャンルがあります。ここで、先ほど述べたネタが重要になります。自分の持っているネタを柔軟に使い、書き始める前にしっかり構成を考えると筋の通った小論文が書けます。あとは、何度も繰り返し書いて添削してもらうことで

す。書いていくうちに自分の癖が分かり、だんだんと小論文を書くことに慣れてきます。慣れてくると小論文が苦ではなくなります。

私がよく先生に言われていたことを参考までに挙げておくと、語尾にバリエーションを持たせることと、違いを定義せずに類義語を複数用いないことです。前者は、文章が単調になるのを防ぐため、後者は、例えば、一つの文章中に「図書」と「本」と「書物」という言葉を、違いを定義せずに使うのは好ましくないためです。なぜなら、採点者にはその意図が伝わらず、文章に一貫性がなくなるためです。

また、知識の後期の問題は現代文の記述問題のようなものや、課題文の要約も含まれるので、ここで点を落とすことがないようにしてください。現代文の問題集を解き、課題文を100字で要約する練習をするのがお勧めです。

私は前期試験が終わった後、ずっと後期入試の対策をしていました。根気が必要だと思いますが、頑張ってください。



◆一言◆

DO YOUR BEST!

情報メディア創成学類

AC入試

◆受験のきっかけ◆

私が筑波大学に興味を持ったきっかけは、高校2年生の時に行ったAO・推薦入試向け冬期講習の、ある塾講師の方が紹介してくれたことです。そして3月まで筑波大学や各大学の情報を集め、3月に行われた説明会での説明を受け、筑波大学のアドミッションセンター入試（AC入試）を受ける決心をしました。

私が筑波大学情報メディア創成学類を受けよう

と思った理由は、大きく二つあります。

一つ目は、自分の学びたいことが学べ、これまでの自分の活動と大学で学ぶことがつながるからです。そして二つ目は、筑波大学が総合大学であることです。メディアやユーザインタフェース、インターネット、情報技術と、これらが社会に与える影響に興味を持っていた私にとって、最適だと思いました。



◆高校時代の過ごし方◆

私は科学技術に関する専門教育を行うSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に通っていたため、高校では科学技術の基礎を学び、実験や実習、レポート作成を日常的に行っていました。高校1年生の時には広くいろいろな分野を学び、製図や風洞実験見学なども行いました。高校2年生になる際に専門に学ぶ分野を選ぶ必要があり、私は情報系を選びました。またウェブサイトの作成やブログの作成なども行っていました。一方で普通科目、英語や物理や日本史などについては、高校のカリキュラムと私のやる気の問題で、理系科目はある程度勉強していましたが、文系科目と英語はあまりやっていませんでした。そして成績は専門科目が軒並み5段階で5を取っていたのに普通科目は良い科目で4、悪い科目は2もついており平均すると悪くはないがそんなに良いわけでもなく、高校の中でも中の上といった感じの立ち位置でした。

高校2年生の2学期あたりからは、大学はAO入試や推薦入試で受けることを考え、冬休みに先に述べた講座に参加し、高校2年生の3学期は大学情報収集を行いました。高校3年生になってからは、学校の授業で課題研究に取り組み、高校3年生の1学期から2学期にかけて研究を行いました。また、高校3年生になってすぐの時期に、他大学の入試も含めた受験計画を立て、また一般入試対策の受験勉強も始めました。そして1学期の間に自分のやりたいことをまとめ、自己推薦書や志望理由書の内容を練り、夏休みにこれらを書きました。

合格後は、残りの課題研究をこなしつつ、勉強、ブログ更新やゲーム作成を行い、また高校3年生の3学期には高校が推薦・AO合格者向けに開設していた授業で大学の勉強の先取りやさらなるプログラミングスキル向上を目指しました。

◆AC入試について◆

一般的にAO入試と呼ばれる自己推薦型の入試を筑波大では組織名の違いからAC入試と呼んでいます。

AO入試もAC入試も、大学の理念や「アドミッション・ポリシー」を理解し、また普通の学力試験では測れない能力を持った人材を集める入試です。大学の理念とのマッチは、あらかじめ大学の「アドミッション・ポリシー（筑波大学では学群や学類ごとに違うアドミッション・ポリシーが定められている）※」を調べ、念頭に置いて各書類を書くようにすればいいと思います。学力試験では測れない能力とは、別に〇〇の全国大会で優勝したとかいう派手な実績だけではありません。アンドロイドのアプリを作ったとか、外国人の友達ができて国際関係に興味を持ったとかでも立派な実績です。そして筑波大学の場合、実績を直接は評価しません。〇〇の大会で優勝しただけなら、「へー君すごいね。〇〇のプロになれば？」となってしまいます。では、筑波大学のAC入試では、何が求められるのでしょうか？それは、「問題発見・解決能力」、「どうしても筑波大学のこの学類

で学びたいという意味」「将来への目的意識」です。一つ目はこれまでの実績や活動を根拠にすれば書きやすいです。二つ目と三つ目は大学で、やりたいことや学びたいことを書き、それが筑波大学のその学類でなければならない理由を考えることで書けると思います。

これら三つを論理的に文章にし、自己推薦書にします。私は添付資料も含めるとだいたい60枚くらいになりました。AC入試受験者の自己推薦書の平均枚数は添付資料を含めて50枚程ということです。志望理由書は、文字通り志望理由を制限字数の中で書くものです。

2次試験の面接は、自己推薦書と矛盾したことを言わないようにするため、自己推薦書と志望理由書の内容を頭に入れ、自分の自己推薦書の内容について簡単にプレゼンできれば、基本的に大丈夫だと思います。

「募集要項」は書き間違えたときなどに備え、どの入試形式でも2部購入することをお勧めします。AC入試では志望理由書を書くので予備があると特に安心です。



◆一言◆

AC入試は、筑波大学に入りたい熱意があり、大学でやりたいこと、学びたいことがあり、根拠を持って自己推薦書を書ければ、誰にでもチャンスがある入試です。出願は9月初めと早いので、準備は早い方がいいです。

※筑波大学の各学群・学類のアドミッション・ポリシーは以下のページで見ることができる

URL: <http://ac.iit.tsukuba.ac.jp/ac/about/leaf/H26leaflet.html>

情報メディア創成学類

推薦入試

◆受験のきっかけ◆

私は高校に入ってからなんとなく国立大学を目指していたのですが、明確にどこに行きたいとか全然決まっていませんでした。しかし、情報系の資格の勉強や学校の試験の勉強はしっかりしていました。また、高校二年生の春に私の親は私に国立大学か早稲田のような有名私立大学に行つてほしいと言ってきたので、そろそろ行く大学を考えなきゃいけないと思いはじめ、大学パンフレットを取り寄せたり夏にはいろいろな大学のオープンキャンパスに行ったりしていました。そんな中、親に筑波大学はどうかと提案され、言われたまま

に筑波大学に行こうと考えるようになりました。パンフレットを見て最初は情報科学類に入ろうと思っていました。高校三年生の春、筑波大学の説明会に行つて入試の形態が4つあることを知りました。そこで言われたことは入学のチャンスは4回あるということと、推薦は毎年応募者が少なくここが狙い目であるということです。自分には特に情報系に強いわけでもなかったのでAC入試は無理だと思い、推薦を受けてみようと思いました。また、この説明会で学類の説明を聞いてメ創に入りたいと思い始めました。



◆高校時代の過ごし方◆

高校一年生の時、高校受験で勉強に自信がついていた私は学校の勉強のやる気にあふれていました。部活にも入り勉強と部活の両立を図っていました。学校の場所は自宅から自転車で約一時間、電車で約一時間の位置にあったのですが、基本的には電車で通学をしていました。電車の中で勉強をよくしていて、テストの順位で一桁を取ることが目標でした。

高校二年生になり、部活も自分たちの代にかわり本格的に取り組んでいたところ、腰を怪我してしまいました。それで私は迷った末、秋に部活をやめ、塾に入ることにしました。1月からは学校の試験の勉強だけでなく受験に向けた勉強をする

ようになりました。

高校三年生になってさらにたくさん勉強をするようになりました。学校から帰ったらほぼ毎日勉強をしていました。しかしその分、学校行事には力を入れて取り組んでいたため、合唱コンクールの時期になるとほとんど勉強ができなくなりました。夏休みはモチベーションを維持するのが難しく、維持するために春にもらった「かすがらいふ」を読んだり、筑波大学のオープンキャンパスに行ったりしていました。9月中は文化祭実行委員をやっていたため、全く勉強ができなくなつてしまい、そのあとは推薦のための練習をしていました。

◆推薦入試について◆

試験日は11月30日、受験科目は英文による数学問題、現代文、面接、数学の口頭試問なので、9月までは英語と数学の前期入試の対策をやっていて、過去問の受験対策は10月に入ってから始めました。英語(数学)の方はまず数学の用語の英単語を覚えることから始めました。用語の単語は15個くらいしか覚えませんでした。大丈夫でした。過去問には詳しい答えはのってないので英語が得意な友達や先生に聞いていました。現代文の方も先生に添削してもらっていました。私は英語と現代文と自己アピールが苦手だったので秋はとても頑張りました。面接練習と口頭試問は10月後半になってから学校の情報の先生に何度も何度も手伝ってもらいました。

実際の試験は筆記試験、面接という順番で面接の途中に口頭試問が含まれていました。面接は口頭試問もあわせて30分くらいだったような気がします。面接官は3人いて志望理由、口頭試問、好きな教科とその理由を聞いてきました。他にも

いくつか質問がありました。そのあとは「ここからはインタビューです」と言われ、「部活でのアピール点があれば教えてください」「フリースローの極意を教えてください」と言われました。私は面接に時間をかけて練習していたので、用意していた内容についてあまり聞かれず残念でした。口頭試問は机の上に計算用紙と紙が裏返しで置いてあって裏に問題が2問あり1問を選択して、制限時間5分で計算、その後黒板を使って説明するという試験で、「 $f(x)$ を $(x+1)$ で割ると～あまるときの $f(x)$ を求めよ」のような問題と「楕円の回転体の体積を求めよ」という問題でした。私は1問目がケアレスミスで解けなかったので2問目を説明することにしました。その際、面接官とコミュニケーションを取りながら図を描いて説明しました。結局最後の答えは計算ミスで間違えてしまったのですが、この通り受かりました。積極的にコミュニケーションを取っていたのが良かったのだと私は思います。



◆試験後の過ごし方◆

試験後から結果発表が出るまで時間があります。ここで油断してはいけません。むしろここが受験勉強を一番頑張るべきところです。これまで推薦に費やしてきた時間でほかの人と差がついています。推薦の試験が終わって、「受かっていたら…」と考える気持ちはわかりますが、さらに差がついてしまいます。頑張ってください！

結果発表が出た後は、各自好きにするとよいでしょう。落ちていても、その頑張りがあればまだついていけると思います。受かっていたら、冬休みが創成されます。遊んだり免許取ったり自由にするとありますが、アパートに住む事を考えている人は早めからアパートを探しておくといでしょう。



◆一言◆

推薦のことでもそれ以外でも質問などあればなんでも答えます！
気軽に相談してください！

Twitter: @heycharo

情報メディア創成学類

前期入試

◆受験のきっかけ◆

私は中学生の時から、パソコンを使って Web サイトを作ったり、動画を編集したりすることが好きでした。私が志望校として筑波大学の情報メディア創成学類に決めたのは、高校に入る前の春休みぐらいだったように思います。自分が好きなことを学べる大学を探しているうちに、この大学のこの学類を見つけ、魅力を感じました。それ以来、第一志望が揺らぐことはありませんでした。



◆高校時代の過ごし方◆

すでに述べたように、高校入学前から具体的な志望校が固まっていたこともあり、一年生のうちからコツコツと勉強していました。私の場合、入学した高校が国立大学に一般で一人進学すればいいぐらいの高校だったため、自分のペースで勉強しないと間に合わないのではないか、という焦りがありました。また、高校受験で失敗した悔しさもあり、大学こそは…、と決心したのを覚えています。しかし、現実には、学級委員を務めたり、ダンス部に所属して踊りまくっていたり、文化祭の企画などもやったりと、思いっきり楽しんでいました。なので、勉強量としては特別多かったわけではないかもしれません。ですが、目標があるだけに意識は高く持っていたと思います。

一年生のときは、国立は難しいよ、一般で筑波なんて無茶、などと友達からも先生からもネガティブキャンペーンがありました(笑)それでも、あきらめませんでした。そして、その意志の強さと努力を見てくれたのか、徐々に友達や先生方も応援してくれるようになりました。

三年生になって、部活も引退し、勉強だけに集中できたかということ、文化祭でダンス発表をしたりクラス企画の動画編集を任されたりと、夏休み

までは意外と忙しかったです。ですが、休み時間や昼休みの時間を利用したり、電車の行き帰りの通学時間を利用したり、朝に早起きをして30分間マックで勉強をしたりして、できるだけ勉強時間を確保しようと努めました。夏休みまでの平日の勉強時間は平均して4時間半ぐらいだったと思います。夏休みには、毎日のように友達と近くの図書館にこもって勉強していました。そのときは、9～12時間ぐらい勉強していました。また、気分転換に、友達と勉強合宿を開いて、お互いモチベーションを高め合ったのを覚えています。9月になり、文化祭も終わると、いよいよ受験勉強に集中していきました。なんとしても志望校に行きたかったですし、そのためならいくらでも頑張れる気がしました。12月からはセンター試験の過去問をひたすら解き、1月のセンター試験では自分にとってベストな点数を取ることができました。センター試験が終わると、2次試験対策をはじめました。私の場合、私立大を一切受けず、筑波大学一本に絞っていたので筑波大対策に集中することができました。集中力が切れやすい、この約1か月間を耐え抜き、3月に晴れて第一志望に合格することができました。

◆前期入試について◆

試験対策についてお話をする前に、お話しておきたいのは、高校受験を失敗したことからおわ

かりのように、私は決して頭がいいわけではありませんでした。ただ、人よりも努力をただけで

す。自分は記憶力が悪い方だ、頭の回転が遅い方だ、と悩んでいる方がいたら、私もそのタイプだったので安心してください(笑)ただ、努力は必要です。努力次第で人は変われます。

まず、筑波大学の英語についてお話したいと思います。筑波の英語は比較的内容を理解しやすいものが多いように思います。ですが、長文が多いので慣れが必要です。長文対策としては、「やっておきたい500、700」を使いました。また、文法や語彙の基礎的な力が問われる問題が多いです。「Vintage」、「Next Stage」などの文法書を何回も解いて完璧にマスターしましょう。また、私は単語帳として「ユメタン(赤・青)」を使っていました。この手の本は、自分の覚えやすいものを選びましょう。「速読英単語」(私は速読対策として文章を読んでいました)や「単語王」、「ターゲット1900」などがあります。単語帳もぼろぼろになるまで、何周でもしましょう。また、英作文は去年から自由英作文に形式が変わりました。英作文は毎年のように形式が変わるので、どのような問題が出てても対応できるように練習しましょう。私は、「英作文基礎問題精講」を3周ほどして、英作文の基礎を固めました。また、一、二年生の時にはZ会の添削を利用して、記述対策をしていたおかげで、記述にはある程度自信ができました。私の得意としていた傍線部訳の問題が、ほぼ毎年のように出ていたのにもかかわらず、今年の英語の問題には一切でなく、その分記号問題が増えました。傾向が変わってもあわてず、落ち着いて解きましょう。(私の反省…)

次に、数学についてです。筑波大学の数学は誘導がしっかりされており、しかも教科書+αぐ

らいの標準的なレベルなので、解きやすいです(と一般的にいわれています笑)。なぜ括弧付けをしたかといいますと、私はセンター対策やほかの科目に勉強時間を取られてしまい、数学ⅢCの基礎が定着しないまま、実践問題や過去問に入ってしまったために、最後までなかなか点を伸ばすことができませんでした。そこで皆さんには、後悔していただきたくないし、12月からセンター試験まではセンター対策で忙しくなるため、夏休みから11月にかけて数学ⅢCの青チャートの例題レベルを一通り理解し、自分でとけるように練習することをおすすめします。そうすれば、センターが終わってからの約1か月間を実践問題や過去問演習に集中することができ、効率よく勉強できると思います。また、私がアドバイスできることとしては、時間配分についてです。メ創の場合5問も解かなければならず、かなり時間的に厳しいです。日ごろから計算を早く正確にできるように訓練が必要です。あとは、もし答えがわからなくてもあきらめず、考え方や公式など自分のわかる範囲でいいので、できるだけ書くことが大切だと思います。もしかしたら、それを書いたことで、部分点が与えられてその一行で合否が決まるかもしれない。ですから、最後まで粘り強く、少しでも点数をあげる努力をしましょう。

最後に、2科目に関して共通することを言います。それは、過去問を解くことの重要性です。目指すべきレベルと自分の力のギャップを知るためにも、筑波大学の問題傾向を知るためにも有用な手段なので、センター試験同様、過去問研究は大切です。私は、10年分ぐらいを解きました。



◆一言◆

大学受験はみなさんにとって過酷で辛いものであると思います。私自身、辛い思いをしました。しかし、その苦難を越えた向こうには、楽しいキャンパスライフが待っています。自分のしたい学びが待っています。切磋琢磨し合う仲間が待っています。それだけの努力をしてまで得る価値があるものが待っています。どうか、めげることなく、あきらめることなく、その受験を乗り越えてください。

合格したら春日で私と握手！！

質問、相談はTwitterへ @motulo

情報メディア創成学類

後期入試

◆受験のきっかけ◆

私がメ創の存在を知ったのは、高校3年生の夏頃です。実は中学生の頃から、ほかの大学にずっと憧れていて、その大学しか眼中にありませんでした。しかし、家庭の事情で国公立大に進学しなければならないこと・浪人はできないこと・高校3年生夏の時点の成績を加味した上で、その大学に前期後期両方出願するのはリスクが高すぎるという結論に至りました。それで他の大学を血眼になって調べた結果、奇跡的にメ創にたどり着きました。

メ創を志望した理由は、(国公立で数少ない)

映像について学べる学類だからです。高校時代に、所属していた生徒会のPVを作る機会があり、それをきっかけにして、映像作成をしっかりと学びたいという意欲が湧きました。ただ、数学や歯学などの他の分野にも興味があり、進学する学部学科選びには本当に悩みました。そんな中で、他大学の学部学科と比べて、メ創のカリキュラムの内容に強く惹かれたことと、筑波大学の、他学群・学類の授業が比較的簡単に受講できるという特色が自分に向いていると思ったことから、メ創を受験することにしました。



◆高校時代の過ごし方◆

先に述べておくと、まさに反面教師としか言い様がない高校生活だったので、覚悟してお読みください。

中学時代に勉強をやたら頑張っていたので、高校入学当初は、成績はかなり上の方でした。たくさんの素敵な同級生に囲まれ、部活と生徒会活動で充実した楽しい高校生活で、相当調子に乗っていました。高校1年生の間は人並み、下手すればそれよりひどいくらいに勉強しませんでした。案の定、みるみる成績は下降し、最初はA判定だった第一志望も、あっという間にC判定になりました。

意識を改めるきっかけは、高校2年生の夏休みでした。各大学のオープンキャンパス(OC)と東京の大手予備校の夏期講習に参加したことです。OCでは、大学の雰囲気を感じて士気を高めました(ちなみに筑波のOCには行けませんでした、後悔しています)。夏期講習では、全国から集ったライバルたちと、学校とは一味違う張

り詰めた空気の中で講義を受けることで、自分の未熟さと向き合うことができました。

生徒会長になり、怒涛の忙しさのまま、あれよあれよと高校3年生になりました。ここでの最大の後悔は、有終の美を飾れなかったことです。私の場合、6月の文化祭のクラス演劇が、高校生活の集大成でした。ここで賞をとれなかったことが悔しくて悔しくて、気持ちを引きずったまま受験モードに突入してしまい、最初のうちはなかなか勉強に集中できませんでした。なので経験者としてこれだけは強く言わせてください。受験勉強を本格的に始める前に、部活でも学校行事でも何でもいいので、しっかりとやり遂げてください!その経験は絶対に、辛い受験勉強の支えになります。ここで後悔が残れば残るほど、辛さも増します。だから、如何なる形でも、自分が満足できるように頑張ってください!

私の高校は田舎のそこそこの進学校だったので近くに予備校なんてないし、家だといだらけて

しまうので、受験期には休日も放課後も学校や図書館などで勉強しました。仲間がそばにいたので、眠い時でも、負けてられないと気を引き締めて勉強できるし、お互い愚痴ったり励ましあいながら、いい刺激を受けました。



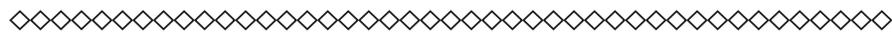
◆後期入試について◆

高校3年生の夏～11月までは前期に焦点を当てて勉強し、12月からセンター対策に臨みました。私は暗記ものが本当に苦手で、地理と英語の語彙力の無さがネックでした。地理は隙あらば資料集やノートをじっくり眺め、英単語は先生に頼み込んで毎日小テストをしてもらいました。その他の教科は、ひたすら演習を重ねて弱点だけ復習して補強していきました。いちから勉強しなおすより、その方が自分の性格的に合っていた気がします。勉強方法は個人で向き不向きが顕著なので、自分に合った方法を見つけてください。おかげでセンター本番では目標達成し、前期中期後期全て第一志望に出願できました。

後期に向けて勉強を始めたのは、前期が終わった次の日からです。それまではほぼノータッチでした。でもそれで十分だと思います。私は中期も出願していたので、中期対策と後期対策を並行して取り組んでいました。後期対策は、とにかく過去問を一日に1年分のペースで取り組んで先生に見てもらいました。小論文上達の近道は、人に見

てもらうことです。後期の小論文は、例年二つの大問で構成されています。傾向を見ると、大問1は、数学・情報系の内容の英文で、小論文というよりは英語の長文問題と数学の問題のミックスのような問題です。もともと数学が得意だったこと、中期対策で英語にずっと触れていたことから、大問1は得意でした。大問2は、日本語の論文を読み、長めの記述で答える問題です。これがどうにも苦手で、うまく時間内に書けなかったり、書いても内容が支離滅裂だったりしました。最初のうちは全然時間内に解き終わらないし、焦りもあったけど、短い期間の中で必死に毎日食らいつけば、おのずと慣れてきます。過去問を10年分解いてから後期試験に臨みました。

本番では、思ったより空席が少なく緊張しましたが、「この空席の分だけ、私は筑波に近づいている」と自分を鼓舞して頑張りました。結果、やはり大問2で満足いく解答が作れませんでした。センターのおかげでなんとかメ創に拾っていただけました(感謝)。



◆一言◆

メ創後期にはとにかくいろいろな人が最後の望みをかけて出願してきます。メ創ひとすじの人もいれば、全く情報関係に縁のない人(つまり私)もいて、ある意味異種格闘技のような感じです。そこで最後のチャンスをモノに出来る人は、やはり最後まで努力した人ではないかと私は思います。努力の先にあるのが楽しいメ創ライフであることは、私が保証します。個性豊かすぎるメ創一同、あなたをお待ちしています！

(質問・相談あれば気軽にTwitterでどうぞ @crimson699)

6. 生活体験記

「春日民ってどんな生活しているの？」

ぜんぜん想像がつかないのではないのでしょうか。入学前はそんなものです。

春日での生活形態には以下の三つがあります。

- ・ 学生宿舎
- ・ アパート
- ・ 自宅通学（宅通）

そう聞いて、またこんな疑問も生まれるのではないのでしょうか。

「宿舎ってどんなところ？」

「アパートってどう選べば……」

「宅通って一日をどう過ごしてるのかな」

実際の春日民がどのように生活しているのか、皆さん気になるところでしょう。

ここからは、学生宿舎、アパート、宅通のそれぞれで生活している1年次の人にその様子を書いていただきました。メリットやデメリット、一日の過ごし方などについて書かれています。普段春日民がどのような生活を送っているのかを知り、あなたが春日民になったときのかすがいふ構想をどんどん膨らませてください。

学生宿舎

ここでは学生宿舎での生活について、受験をお考えのみなさんとその保護者の方の目線で説明していけたらいいなと思います。

>> 設備紹介

一般に「学生宿舎」というと、みなさんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。とくに保護者の方の中には、「門限が厳しいんじゃないの?」とか、「掃除は当番制でしょ?」とか、「汚くて狭いんでしょ?」とか、そういった心配を抱く方も多いと思います。

しかし、そのような心配は春日宿舎においては必要ないといえます。宿舎は一般的な「学生宿舎」と比べて、ずっと自由で快適です。門限はないし、共用部の掃除当番もありません。また春日宿舎は改修を終えたばかりで、大学の他宿舎と比べても広くて綺麗だそうです。他宿舎に住む友人を私の部屋に招くと、必ずみんな褒めてくれます。広さは240cm×430cmの約5.5畳。1フロアには約20人が暮らしています。

春日宿舎には十分に生活のための設備が整って

います。例えば部屋には机、椅子、ベッドと寝具が備わっています。また、6口のコンセント、TVのアンテナとLANポートがあり、インターネット環境も快適です。また、窓の外にはベランダもあり、エアコンの室外機を置いたり、洗濯物を干したりすることもできます。

共用部には、補食室やお風呂・シャワー室とトイレがあります。補食室にはシンクとガスコンロなどの調理設備と、洗濯機・乾燥機が備わっています。洗濯機・乾燥機はそれぞれ1回100円です。また、春日宿舎ではお風呂は無料です。ただ、お風呂は17時~22時という時間制約があるので、時間内にお風呂に入ることのできない日は、24時間営業のシャワー室も使えます。こちらは9分間で100円です。トイレは全て洋式で、個室は3つ、洗面台は4つあります。

< メリット・デメリット >

宿舎で暮らすメリットは友人と助け合えることです。例えば先日私がコップを割ってしまったときも、友人が掃除機を貸してくれ、片づけを一緒に手伝ってくれました。このように困った時の助け合いだけでなく、一緒に料理したり、勉強したり遊んだり、友人と一緒に過ごす生活はとても楽しいものです。

宿舎のデメリットは、共同生活であるゆえに気

を配らなくてはいけないことです。お風呂の混雑時には待つ必要があるし、順番が回ってきた後も次の人のことを考えてお風呂は急がなければなりません。夜中に洗濯をしたくなくても騒音に気を配らなければならないし、補食室では一人で料理したいと思っても、グループで一緒に料理をしている人たちに気を遣うときもあります。

>> 1日の過ごし方

- 平日 -

7:00~8:00	起床 春日エリアで授業がある日は 8:00 起床でも間に合いますが、第3エリアで授業がある日は移動時間とお弁当の調理時間を考慮して早く起きなければなりません。
8:05~8:35	大学に向けて出発 春日エリアならば5分で間に合う！……なんて言っているとうっかり教室の場所を間違えたりして遅刻する羽目になるので、みなさんはマネしないようにしましょう。
8:40	授業開始 いつも遅刻ギリギリなので席は自ずと前の方になってしまいます……。
11:25	昼休み お弁当または部屋で簡単に調理をして済ませることが多い。たまに食堂にも出没。
12:15	午後の授業開始 部屋で昼食をとる日にはこれまたうっかりして遅刻ギリギリ……。
13:30~18:00	午後の授業終了 サークルまたはアルバイトへ。私の所属するサークルは非常に怪しいサークルですが、私にとって唯一の落ち着ける場所です。
19:30~24:00	帰宅 サークルでご飯を食べに行ったり行かなかったり、はたまたアルバイトの日は帰ってきてから自炊をしたりします。
24:00~26:00	就寝 課題やテストの有無、分によって就寝時間は変わります。

- 休日 -

8:00~10:00	起床 平日よりは遅めのスタート。
8:30~10:00	朝食 ちょっとお洒落を気取ってパンケーキを焼いたり、余力がある日はジョギングしてそのままパン屋さんのモーニングバイキングに行ったりします。ジョギングで燃焼したカロリーが全部帳消しになるのであまりダイエット効果はありません。
12:00	昼食
午後～夜	課題・勉強と向き合う時間、あるいは、サークルの人たちと会ったり、読書やインターネット（主に Twitter）に時間を溶かしたりします。
24:00~26:00	就寝

>> 一言

……こんなダメダメな私の宿舍生活が、本当にみなさんの参考になるのだろうか？！と心配になってしまうほどですが、これを読んだみなさんが、学生宿舍での生活を今までよりイメージしやすくなった！となれば、幸いです。ぜひ来年、春日宿舍にてお会いしましょう！

アパート

皆さんこんにちは。ここでは、アパートでの生活について紹介していこうと思います。筑波大学の一年生は、アパート・宅通よりも宿舍住まいの人のほうがかなり多いです。が、自分とはとにかく「ウォシュレットと個別の風呂がほしい！」という理由でアパート住まいを決めました。

>> 設備紹介

リビング8畳、ウォシュレット、風呂、2口ガスコンロ、洗濯機中置き、ベランダ、クローゼット収納、インターネット無料あたりが主な設備です。比較的新しいマンションということもあり、家賃は45000円と、つくば市内の家賃の相場としてはやや高めです。

ウォシュレットや築年数、そして洗濯機中置きにこだわらなければ、8畳でも3万円台で借りられる場所も多いです。6畳となるとさらに安く収

めることも可能です。

カルチャーショックだったのは、洗濯機が外置きの物件が多かったことです。自分は雪の多い土地から来たので、洗濯機を外に置く家があるということすら知りませんでした。外で風雨にさらされ風化及び劣化が早まる可能性がある、ということとを考慮して妥協するのであれば、洗濯機外置きの物件は家賃が安いところが多いです。

<メリット>

自分1人の時間が作れる、という部分はやはり大きいです。炊事洗濯風呂トイレで他の人に会うことはありません。面倒な人にはつらいかもしれませんが、やはり家事全般を1人でこなさなくてはならないので生活スキルは身に付きやすいと思います。

自分の場合、春日宿舍に住む人より本学が近いので、本学への移動が多い人には利点だと思います。

また、部屋がきれいで防音がしっかりしていれば人を呼んでパーティ的なこともやりやすいです。特に異性を部屋に呼べる！これは寮ではできません！自分はしたことはないです！

∴<デメリット>

隣人が知り合いというケースのほうが少ないため、困ったときに気軽に相談しに行く～といったことはあまりできません。また基本的には春日宿舍に住む人たちより春日エリアが遠いため、朝の準備や移動には余裕を持つ必要があります。起こしてくれる人も基本いないので、自力で起きなくてはなりません。

さらに、やはり基本的に生活費が寮よりかかります。特に光熱費、中でもガス代はかなり高めです(自分はガス水道電気合わせて月8000円程度です)。

>> 1日の過ごし方

- 平日 -

7:30 起床、朝食、身支度
—理想はこうなのですが。8時くらいに起きてしまい朝食を抜かすケースも多いです……。

8:15 家を出る

8:30 頃 学校へ到着
自分の家は春日エリアへも本学へもあまり変わらない時間で移動できますが、そうでない人は1限の場所に注意して家を出る必要があります。

8:40 1限開始
知識一年は基本的に週に4日は1限があります。
授業時間

18:00 6限終了
何限に授業が終わるかは曜日によって異なります。自分の場合は4限5限に終わるケースも多くあります。買い物などをその際に行うことが多いです。

18:20 夕食を作って食べる

19:30 フリータイム
Twitterをするときもあれば、ゲームをするときも本を読むときも(勉強するときも一応)あります。課題が立て込んでいる場合は中央図書館に行き課題をすることもありますが(平日は24時まで中央図書館が使えます)。

24:00 シャワーを浴び、就寝

- 休日 -

10:00 起床、朝食

10:30 掃除(土曜日)
自分は毎週土曜日に掃除と決めてやっています。日曜日はダラダラ過ごしています。。

12:00 頃 昼食

12:30 出かける
ゲームセンターに行くことが多いです。ついでに買い物。

16:00 頃 帰宅、課題
特に日曜日は毎週課題に追われていました。レポートは計画的に。

課題にめどが付き次第就寝

>> 一言

自分のスケジュールを見るだけではそう見えないかもしれませんが暇な時間は想像以上に多くないと思います。突然用事が増えることも少なくありません。それに課題と軽い授業の復習をしたら1日はあっという間です。アパートでは1人でできることも多いですが、1人でやらなければならない事も多いです。時間を計画的に使うことがアパート生活において非常に重要です。アパート生活、自分は今存分に楽しんでます!

自宅通学

ここでは、親元を離れずに実家から大学へ通う人(通称宅通)の生活について紹介していこうと思います。宅通を考えている人は今後の参考に、それ以外の方は宅通のつらさをわかってもらいたいです。

<メリット>

・家事を全てしなくても生活できる

宅通の人が一番宅通でよかったと思う点だと思います。家に着けば食事にはありつけ、洗濯もやってくれる人がいる。一人暮らしでは決してありえない環境です。

・自由に自分のお金を使うことができる

宿舎やアパートの住んでいる人なら食費などで使わなければならないお金も宅通であれば、お金のやりくりは悩む必要は少なくなります。バイトもしていれば、月数万円レベルで遊ぶことも可能です。

・規則正しい生活ができる(「できる」というより「しなければならない」ですが……)

朝は6時までに起きて7時までに家を出ないと1限に間に合いません。そのため、夜は遅くまで起きていられません。だから、必然的に規則正しい生活ができます。早寝早起きはやっぱり大事だと思います。

・時間の使い方がうまくなる

課題に追われる日々を過ごすときと空き時間にちょっと課題を進めたり、電車の中で授業の復習をしたりするようになっていきます。

<デメリット>

・通学が辛い

7時に家を出ないと1限に遅刻は確定するし、電車が遅延すれば遅刻はするし、満員電車で苦しくなるし、寝過ごして帰る電車がないことはあるし、でかなりつらいです。(すべて経験済み)

・急な集まりに行けなくて辛い

自分は自宅から大学まで、最短で1.5時間かかるので、10時頃に昼食を誘われても大学に着くころには12時になってしまいます(昼休み終了は12:15)。家で課題をやっていたら実際にこれが起きたので、つらかったです。

・夜遅くまで友達といられなくて辛い

土浦駅までのバスが22時台、つくばエクスプレスの終電が23時台(2014年7月現在)のため、宿舎やアパートに住んでいる人と遊んでいると途中で帰ることになります。つくばに住めばもっと遊べるのに、と思うとつらいです。(どうしても時は友人に泊めてもらいました。)

>> 1日の過ごし方

- 木曜日 (バイト有り) -

8:00 起床 (1・2限なしのため)
~10:00 終わっていない課題を終わらせる
10:30 自宅発
12:00 つくば駅着
12:15 3限開始
15:00 4限終了
15:25 つくば駅発
16:40 バイト開始
20:00
~23:00 バイト終了
夕食など
24:00 就寝 (次の日は1・2限あり)

・ - 火曜日 (バイト無し) -

・ 6:00 起床 (1・2限有り)
・ 7:00 自宅発
・ 8:30 筑波大学着
・ 8:40 1限開始
・
・
・
・ 18:00 6限終了
・ 18:40 サークル開始
・
・
・ 21:30 サークル終了
・ 23:30 帰宅
・ 25:00 就寝

- 土曜日 -

8:00 起床
~13:00 ネットサーフィンしたり片づけしたり
13:30 自宅発
15:30 サークル開始
20:00 サークル終了
22:00 帰宅
24:00 就寝 (課題は次の日に託す)

>> 一言

ここまでに宅通のメリット・デメリット・一日の過ごし方を書かせていただきましたが、宅通をあらわすと「つらい」の一言です。それでも宅通を続けられるのは、同じ宅通をしている同志の存在や、大学に行くのが楽しいという思いがあるからでしょう。つらさを乗り越えればそれなりの楽しみも待っています。それでは、失礼させていただきます。ご読了ありがとうございます。

7. サークル

◆どんなサークルがあるの？

筑波大学のサークルは、そのほとんどが

- ・文化系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>)
- ・体育会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>)
- ・芸術系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>)
- ・一般団体 ・公認学生組織

のいずれかに属しています。

逆にいうと、このいずれかに属していない団体はちょっと活動内容が不透明なところもあるので気をつけましょう（すべてがそうとはいえないかもしれませんが…）。

どんなサークルがあるか、ですが、ちょっとありすぎてここには書ききれません…（´・ω・`）とにかく、なんでもできるのが筑波大学。運動にも芸術にも文学にも福祉にも、なんにでもチャレンジできます！

◆学業やバイトとの両立

サークルをやっていたら他のことってできないんじゃないの…？ と不安になっている皆さんも大丈夫、両立は可能です。

筆者もサークルもバイトもしていますが、単位は取っています。ただし、サークルには毎日のようにがちがちに活動しているところから、週1日のペースでゆるーく活動しているところまで様々です。バイトも同様。何を優先するのかをしっかりと決めて、サークルも選びましょう。

両立できるかできないかは自分次第かもしれません。大学生ですからね。

◆「部」と「サークル」

サークルを探していると、「○○部」というものとそうでないものがあることに気が付きます。

これはあくまでも筆者のイメージなのですが、部のつくものはわりとがちでやっているイメージ。そうでない団体はちょっとゆるめなイメージ。あくまでもイメージ。部がつかなくても結構ハードに活動している団体ももちろんあります。

ちなみに、医学○○部という団体が多く見受けられますが、これは医学群以外の学生も参加できます。新歓が豪華なので一度は行ってみるといいかも。

◆新歓について

春になると、多くのサークルが新入生歓迎会、略して新歓を行います。新入生にとってはタダ飯のチャンス！（笑）4月の食費が恐ろしく安くなる、なんてことが普通に起こります。もちろん、自分の入りたいサークルの雰囲気を知る大事な機会です。ただし、新歓に便乗して怪しい団体から声がかかることもあります。自分の身は自分で守りましょう。

新歓の様子や参加団体は筑波大学新入生歓迎祭のページ (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~shinkan/>) から確認することができます。気になった人はチェックしてみてください。

8. アルバイト

◆バイト時期

この項目を見ているみなさんの大多数はきっと「バイトは大学生活に慣れてから…」と考えているのではないのでしょうか？ はっきり言います。「甘い」です。まだいい、テストが始まるから。サークルの合宿があるから。新学期の授業に慣れてから。どんどん先延ばしにしてしまった結果何もしない、なんてことになりかねません。また、夏休みに始める人も多いようですが、学生にとって一番の稼ぎ時である長期休暇を研修期間という時給が低い状態で迎えることも損をしているように思えます。

大学生活もバイトをしている、していないによって大きく様相を変えてきます。正直いって、一年の春Cモジュールなんてものは、バイトをしていないと、暇で暇で仕方ありません。逆に、バイトをしていることで課題提出まで効率的に課題に取り組むことが身に着いたりします（土日にバイトがあるため「土日にまとめてやろう」などと言いつけないので）。

また、大学生活に慣れるように、バイトも慣れてしまえばどうということはありません。むしろ楽しくなってくる時もあります。楽しいことをやってお金をもらえるなんて最高じゃないですか？

◆給料について

いかなる条件でバイトをしているかによって異なりますが、土、日6時間勤務でだいたい2～3万というところが目安となるでしょうか。週5、6勤すれば万越えも夢ではないです。

しかし、大事なことを忘れないでください。優先すべきはお金ではなく、己の健康や、学業であります。このことを忘れずみなさんも楽しいバイト生活を送ってもらいたいと思います。（とある先輩の感想です）

◆バイトの種類

飲食店

まかないを食べることができたりします。キッチン業務は時給800円～900円ぐらいが相場。若干高めです。ホール業務はキッチンと違い接客業なので人とのコミュニケーション能力を求められます。キッチンより若干時給が低いところが多いです。割と競争率が高く、ホールで希望を出したのにキッチンしかあいておらず入れられるなんてことも。

家庭教師・塾講師

大学生が行う一般的なバイトの中ではトップクラスの時給を誇ります。しかしその実、報告日誌作成、授業準備等、時給が発生しない業務時間が多かったりするので他の一般的なバイトとたいして差がなくなってしまったりもします。また営業形式上毎週決まった時間に拘束されるため、急に予定が入ったときなど対応力が低いのがネックです。

ショップ販売員

時給もそこそこ、服も汚れることはまずないです。まかないがないため働くたびに昼食代がかさむということがデメリットかもしれません。時給も飲食店と遜色ないところが多く割とお勧めのバイトです。

他にも、大学図書館や心理実験の被験者など、筑波大学ならではのバイトもあります。自分の興味で探してみるのも面白いですよ！

9. 筑波大学の1年間

4月

■ 宿舎入居

宿舎は春日、追越、一の矢の各地区ごとに入居日が決まっています。

入居日のイオンには臨時バスが出るほど。

■ 入学式・新入生歓迎祭

各学類やサークルで新歓祭が行われます。

色々なイベントに参加すると友だちが増えるよ！

5月

■ 春季スポーツ・デー

春季と秋季の年2回行われる行事。有志参加で、様々な球技やミニゲーム、

スポーツ写真コンテスト等も行われます。運営しているのはスポーツ・デー委員会です。

■ やどかり祭

宿舎祭ともいいます。1年生が出店していることが多いお祭りです。

これを通して恋の季節がやってくるとか来ないとか。まあ人によりけりですね。

6月

■ 春 AB モジュール期末試験

一年生最初の山場。春 AB モジュールに授業が集中しているのできついです。

これを乗り越えると授業が比較的少ない春 C モジュールに突入します。

友だちと協力して生き抜きましょう。

8月

■ 春 ABC モジュール期末試験

■ 夏季休業

10月

■ 全学停電

安全点検のため、毎年、全学規模で停電があります。

もちろん宿舎も真っ暗です。冷蔵庫…orz

11月

■ 学園祭

通称「雙峰祭（そうほうさい）」。3日間にわたって行われる、大規模なお祭り。

筑波大の広大なキャンパス中で模擬店などが出店される。

お店を出しているのはサークルだったりクラスだったりゼミだったり。

運営しているのは筑波大学学園祭実行委員会（通称は実委）の現役生や OB や OG。

■ 秋季スポーツ・デー

春季スポーツ・デーとほぼ同じイベントです。多少種目が変わります。

12月

■ 秋 ABC モジュール期末試験

■ 春季休業

2月

■ 秋 AB モジュール期末試験

■ 冬季休業

3月

■ 卒業式

10. 学費・宿舎・奨学金

平成 26 年度の授業料・宿舎費・奨学金について簡単に説明します。

学費

1 年次納入額

282,000 円

入学金

267,900 円

授業料（第 1 期・第 2 期）

535,800 円

年間授業料合計

817,800 円

1 年次には入学金＋授業料で約 80 万前後の納入、2 年次以降は年間約 50 万ずつの納入になります。ちなみに条件が揃えば授業料および入学金の全額、もしくは半額を免除する制度があります。

奨学金

毎年 4 月中旬に、日本学生支援機構申込説明会が開かれます。そのときに配布される必要資料に必要事項を記入し、学校に提出することで奨学金の申請は終了します。

実は書類配布から締切までの期間はとても短く、その上保護者に記入してもらわなければならない箇所もあるので、奨学金を申請しようと思っている人は早めに奨学金について詳しく調べると良いかと思います。

※詳しくは日本学生支援機構の公式 Web ページ (<http://www.jasso.go.jp/>) をご覧下さい。

春日宿舎

寄宿料

8,000 円／月

共益費

7,035 円／月

※基本使用料（寄宿料＋共益費）

15,035 円／月

保証金

30,000 円

年間合計

210,420 円

宿舎ではガス代・水道代は無料ですが、別途電気代は発生します。しかし、いくら電気を酷使しようとも月に 1,000 円を超えることは滅多にないというほど安いです。

11. 筑波大学の施設

① 一の矢宿舎

第二、第三エリアに通う学生が使うことの多い宿舎です。キャンパス内で最北端に位置するこのエリアは春日から最も離れた施設になりますが、遊びに行ったりするので訪れる機会は意外と多いです。

② 第二エリア

日本語・日本文化学類、障害科学類、生物学類などが使用しているエリア。春日民が立ち入ることはそれほど多くありません。大変入り組んでいるので、たまに訪れた春日民が迷子になって発見されることが割とよくあります。

③ 第三エリア

国際総合学類、工学システム学類、情報科学類などが使用しているエリア。第二外国語の一部はここで授業が行われており、また同じ情報学群に属する情報科学類が主に使用しているため、比較的春日民も訪れることが多いです。

④ 第一エリア

人文学類、地球学類、数学類などが使用しているエリア。建物が棟ごとに色分けされているので大変鮮やかです。講義が集中している時間帯は辺り一面が自転車で埋め尽くされます。中央図書館の手前があるので春日民も通過することが多いです。

⑤ 大学会館

講堂や会議場などが配置された建物です。入学式などの式典や全学規模での説明会はここで行われます。

⑥ 体育・芸術エリア

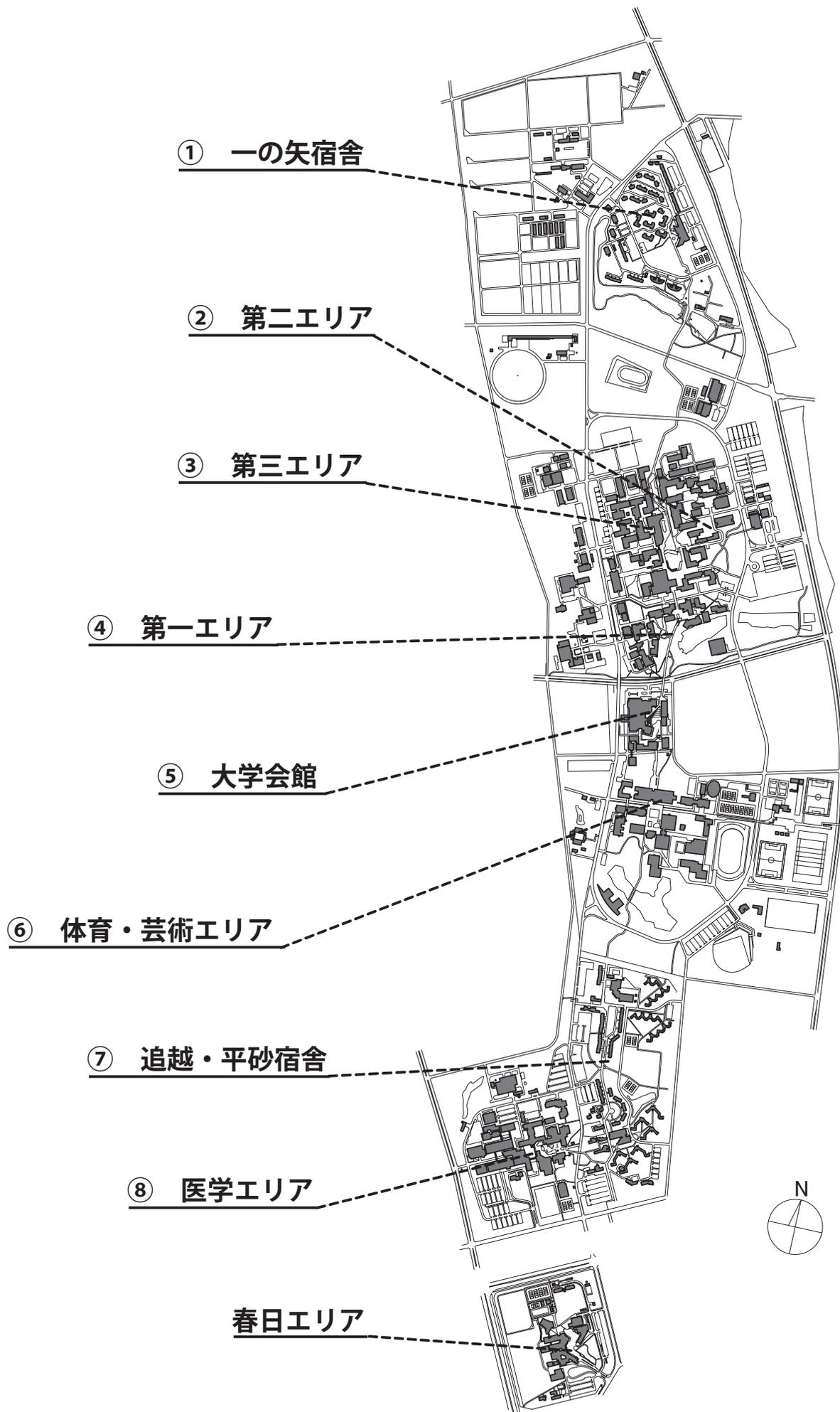
体育専門学群、芸術専門学群が主に使用しているエリア。さすが芸術、建物が白くて綺麗です。

⑦ 追越・平砂宿舎

主に医学エリアや体芸エリア、第一エリアに通う学生が使っている宿舎です。やどかり祭の開催地ともなります。一部の知識・メ創の学生もここに配置されています。

⑧ 医学エリア

その名の通り医学類、看護学類、医療科学類の使用するエリア。大学病院もこの中にあります。他の学類の学生が中に入るには特別に許可を得る必要があり、謎に包まれたエリアです。



12. 春日エリアの施設

① 春日宿舎

主に春日エリアの学生が使っている宿舎。
詳しくは「生活体験記」参照。

② 体育館

図情バレー部や図情バスケット部が使用しています。
が、はっきりいってしまうと春日民はあんまり利用しないかも。

③ 講堂

ステージと客席の備えられた中規模ホールです。
説明会のときや一部の集中講義ではこの施設を利用しますが、あまり利用頻度は高くありません。

④ 書籍部

教科書、雑誌や文房具などを販売しています。全て定価の1割引きです。
実は春日の書籍部だけ漫画が置いてあるんです。もちろん1割引きです。

⑤ ラウンジ

食堂のとなりにあるフリースペースです。ちょっとした集会や会議のときはここに集まります。パンやカップラーメンなどの自動販売機が置いてあり、24時間開放されています。学生の強い味方です。

⑥ シンデレラ階段

7B 講義棟のロビーに備えられた階段の通称です。
あんまりシンデレラっぽくはない。よく学生の集合場所にも指定されます。

⑦ 春日食堂

豚丼やカレー、うどんの他に日替わり定食などがあります。価格は300～500円くらい。本学の食堂よりは混んでいないと思います。営業時間も他の食堂より短いのでいろんな意味でレアかも！

⑧ 図書館情報学図書館

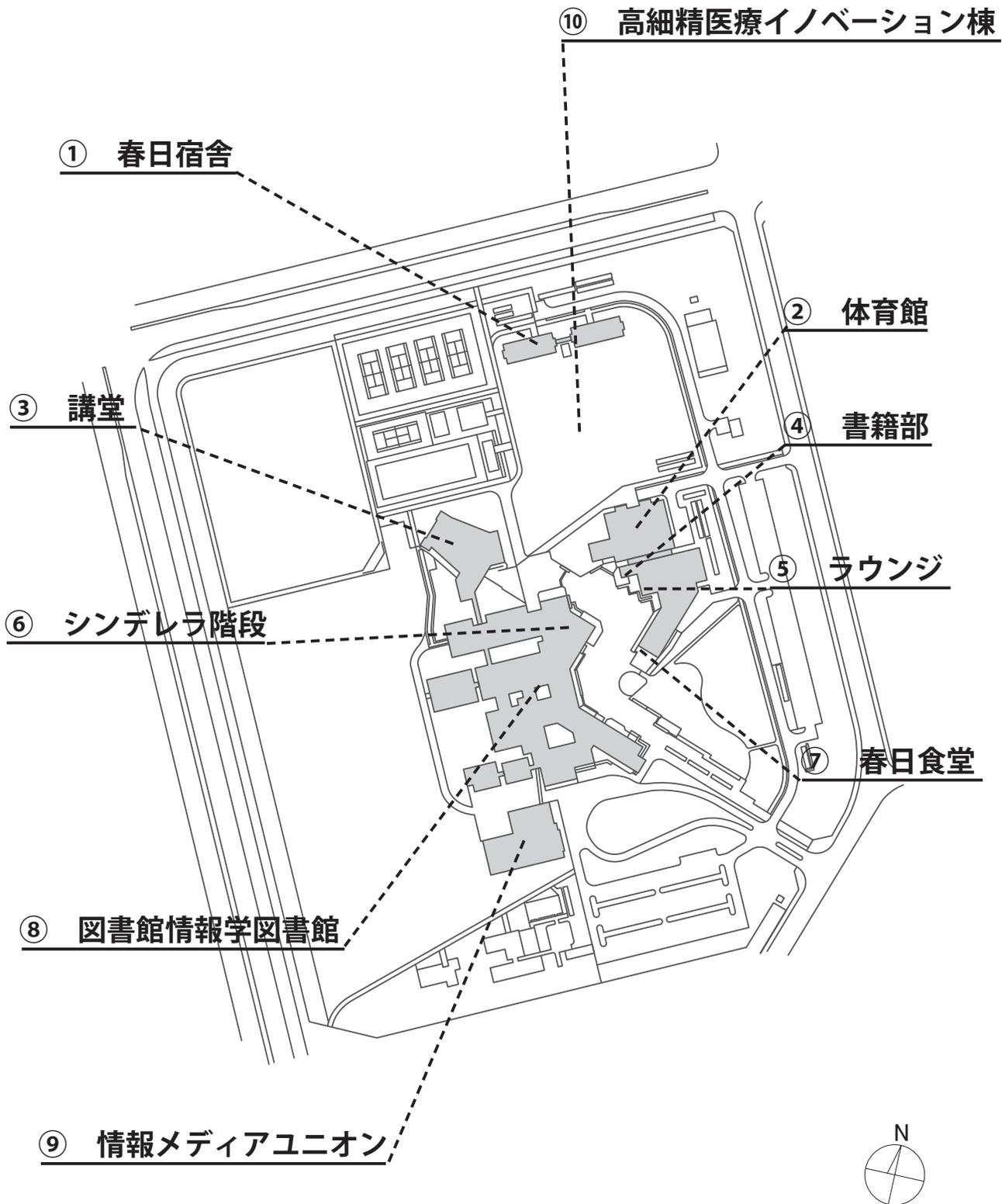
「筑波大学附属図書館」のページを参照。

⑨ 情報メディアユニオン

春日エリアの中で、多分一番綺麗な建物。大学院の研究室があるほか、様々なメディア関連機材が配置された「クリラボ」なる素敵な部屋があります。知識情報・図書館学類生は二年生、情報メディア創成学類生は一年生のうちからここで講義があります。ここで講演会や発表会が開かれることもあります。

⑩ 高細精医療イノベーション棟

春日宿舎の裏で工事真っ最中の施設。医学の施設が建つらしいですが詳細は不明…。



13. 筑波大学附属図書館

【中央図書館】

第一エリアと第二エリアの間にある、筑波大学内で一番大きな図書館です。5階建て。図書だけでなく雑誌や映像資料も豊富です。スタディスペースもあり、授業と授業の合間に勉強する人も多です。基本図書館にはパソコンもあるので、パソコンを使わなければならないレポートも図書館にこもって仕上げることができます。ちなみに入り口にスターバックスがあり、お腹をすかせた学生たちをいつも誘惑しています。

【体芸図書館】

体芸エリアにある図書館。春日の学生は体育の後にたまに利用したりする人もいます。他の図書館よりデザイン性のある造りをしている(気がする)ので、見学に行くと面白いと思います。

【医学図書館】

医学エリアにある図書館。残念ながら筆者は行ったことがありません。行ったことがある人に聞いたところ、勉強している人が多いので、モチベーションが上がるそう。他の図書館とは開いている時間が違ったりすることがあります。

【図書館情報学図書館】

春日エリア内にある図書館。通称 図情図書館。2階建て。図書館学に関する図書や雑誌を多く所蔵している。小規模だがこもりやすい。ラーニングコモンズというパソコンやスクリーンなどが備えられているスペースがあり、そこではチューターと呼ばれる上級生や大学院生たちがレポートなどの相談に乗ってくれる。春日の誇れるもののひとつだったりする。

【大塚図書館】

東京キャンパスにある図書館。学類生のうちはあまり利用することはないと思われる。

14. 用語集

あ行

天久保〔あまくぼ〕

地名。筑波大生が多く生活している。

アパ民〔あぱみん〕

アパートに住んでいる人。

1学・2学・3学〔いちがく・にがく・さんがく〕

それぞれ第1エリア、第2エリア、第3エリアの通称。学群・学類再編前のナンバー学群の名残。

一の矢〔いちのや〕

地名。または、一の矢宿舎。春日の人にはあまりなじみがない。団地のように広い。猫が人懐こい。

エクストリーム移動〔えくすとリーむいどう〕

春日と本学の間を15分(休み時間)で移動すること。遥かなる旅路……

追越〔おいこし〕

追越宿舎。知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の学生が入ることもある。

か行

学内バス〔がくないばす〕

正式名称 学内循環バス。ループ(ら行参照)を走る。筑波大生は年間8,600円で乗り放題。時間通りに来ないことが多い。

春日〔かすが〕

- つくば市内の地名。
- 春日エリア(春日キャンパス)(かすキャン)。

- 知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の総称。

春日食堂〔かすがしょくどう〕

春日エリア内にある食堂。通称かすしょく。味は日進月歩。ぜひお試しあれ。

クラ代〔くらだい〕

クラス代表者会議。春日地区では、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類が合同で春日地区クラス代表者会議として、春日エリア内のあれこれを改善するため、日々活動している。

掲示板〔けいじばん〕

授業やテストに関する情報が貼られる掲示板。重要な情報が掲示されるので、こまめにチェックしよう。

粉クリ〔こなくり〕

体芸エリア・2学・3学に存在するパン屋。美味。朝にはバイキングをやっている。

さ行

散歩〔さんぽ〕

入学式前に春日から本学の前まで見学をしに行くこと。新入生歓迎委員会の企画である。やるかどうかはその年の委員次第。宅通の人はこのことを知らずに入学してくることが多いので、入学前はWeb等で情報を得ておこう。

実習室〔じっしゅうしつ〕

機室、サテ室とも。パソコンが沢山置いてある教室。課題をやったり、娯楽のためにパソコンを使いにくたり、その使用目的はさまざま。

宿舎民〔しゅくしゃみん〕

宿舎に住んでいる人のこと。詳しくは生活編で！

シンデレラ階段〔しんでれらかいだん〕

1階と2階とをつなぐ、大きな階段。その形状からシンデレラ階段と名がついた。待ち合わせによく使われる。王子様は…心の中に。

全代会〔ぜんだいかい〕

全学学類・専門学群代表者会議の略称。通称Z(ぜっと)。生徒会の化け物のようなイメージ(あくまでもイメージ)。この人たちのお陰で筑波大生は充実した生活が送れている(はず)。

全学計算機〔ぜんがくけいさんき〕

筑波大学の学生が使えるパソコンのこと。パソコンを計算機という呼び方に慣れていない人は、最初は何のことだかさっぱりわからない。結構ハイスペックで色んなソフトも入っているので、授業以外に使ったりすることも。

雙峰祭〔そうほうさい〕

11月頃に3日間にわたって行われる、筑波大学の学園祭。実行委員は学実委と呼ばれる。1日では回りきれないほど規模が大きい。

た行**宅通**〔たくつう〕

自宅から大学へ通ってくる人の通称。詳しくは生活編で。

知識〔ちしき〕

知識情報・図書館学類の略称。klis(けーりす)と呼ばれることも。

Twitter〔ついったー〕

春日民の大事な情報ツール。ツイ廃、ふぁぼ、RT、TL、規制という言葉が常識となっていく日常。春日は筑波内でもツイッター普及率がすごい。先生方もやってらっしゃいます。また、知識情報・図書館学類の非公式のアカウントもありますのでご参照ください。

つくばっく〔ーーー〕

帰省先からつくばに戻ってくること。

TX〔ていーえっくす〕

つくばエクスプレスの通称。秋葉原まで最速45分。宅通の中で利用する人もいる。

図情図書館〔とじょうとしょかん〕

図書館情報学図書館の略称。同じく筑波大学附属図書館として、中央図書館、医学図書館、体芸図書館などが存在する。勉強したり昼寝したり、使い方は人それぞれ。

な行

7A205〔ななえーに一まるご〕

春日エリア内で最も大きな教室。知識情報・図書館学類では1年生の間はここで授業を受けることが多い。

は行

平砂〔ひらすな〕

平砂宿舎の通称。グランドスラムと呼ばれる部屋は色々な意味で有名。

ペデ〔ぺで〕

ペDESTリアンデッキの略称。筑波大学の中を縦にまっすぐ通る。自転車と歩行者が通る。本学(二つ下の項目参照)への行き来の際によく使う。

ほけかん〔ほーかん〕

保健管理センターの略称。学生は基本的に無料で診察を受けられる。

本学〔ほんがく〕

第1、2、3エリア等の通称。春日エリアから自転車で約15分。1年生だと授業だけでかなりの時間を過ごす。

ま行

マジック〔まじっく〕

行事等で苦労を共にした男女がカップルになったりすること。「やど祭マジック」、「クラ代マジック」、「雙峰祭マジック」などがある。詳しくは入ってから先輩に聞くと良い。

メ創〔めそう〕

情報メディア創成学類の略称。創成、mast(ますと)と呼ぶ人もいる。

や行

やどかり祭〔やどかりさい〕

入学して初めての大きな行事。宿舍祭とも言う。主に1年生を中心に出店したり御輿を作ったりする。ミスコン、もとい「ゆかコン」なるものが開催される。

ら行

ラーニングコモンズ〔らあにんぐこもんず〕

通称LC。図情図書館の中に存在する。院や、学類の先輩方(チューター)が、課題の相談などによってくれたりする。パソコンなども置いてある。

ラウンジ〔らうんじ〕

春日食堂横にある24時間自由に使えるスペース。パンやカップラーメン等の販売機がある、学生の強い味方。

ループ〔るうぷ〕

学内バスが通る道路のこと。けっして舗装は綺麗ではないが、ペデは坂道が多いので自転車だところらの道を好んで通る人が沢山いる。雨の日は水が溜まりやすいので水没に要注意。

編集委員

Web 掲載のため省略

特別寄稿

Web 掲載のため省略

Special Thanks

情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
図書館情報エリア支援室の皆様
春日地区クラス代表者会議
過去のかすがらいふ編集委員の皆様
その他、ご協力いただいたすべての皆様

